

東京放射線

2014年1月号

Vol.61 No.713



公益社団法人 東京都診療放射線技師会

<http://www.tart.jp/>

巻頭言

年頭所感 篠原健一

会告

公益社団法人東京都診療放射線技師会
定款及び諸規程の改正案に関する意見募集について
新春のつどい

第51回きめこまかな生涯教育

第28回日暮里塾ワンコインセミナー

平成25年度診療放射線技師基礎技術講習「放射線治療」

第12回ウインターセミナー

第6回MRI集中講習会

お知らせ

第12地区研修会

第8地区研修会

報告

東京都功労者表彰

平成26年新春企画 新春座談会

連載

誌上講座「臨床検査」

佐藤和美、山田 晶、小松和典

研修会等申込書

平成25年度 スローガン

一、チーム医療の推進
二、地球環境と調和した医療技術の向上
三、生涯教育・専門教育の推進

2014年 JAN CONTENTS

目次

謹賀新年	4
巻頭言 年頭所感	5
会告1 公益社団法人東京都診療放射線技師会 定款及び諸規程の改正案に関する意見募集について	6
会告2 新春のつどい	7
会告3 第51回きめこまかな生涯教育	8
会告4 第28回日暮里塾ワンコインセミナー	9
会告5 平成25年度診療放射線技師基礎技術講習「放射線治療」	10
会告6 第12回ウインターセミナー	11
会告7 第6回MRI集中講習会	12
会告8 平成25年度多摩支部研修会	13
会告9 第29回日暮里塾ワンコインセミナー	14
会告10 平成25年度城西支部研修会	15
会告11 災害対策委員会研修会	16
お知らせ1 第12地区研修会	17
お知らせ2 第8地区研修会	18
お知らせ3 第5地区研修会	19
東京都功労者表彰	20
平成26年新春企画 新春座談会	22
連載 誌上講座 臨床検査「病理検査の概要」	31
こえ	
・第50回きめこまかな生涯教育に参加して	34
・平成25年度中央区健康福祉まつり印象記	35
NEWSひろい読み	36
バイブライン	
・第36回消化管造影技術研修会	38
・厚生労働省受託事業「チーム医療による災害支援～多職種連携の推進に向けて～」	39
平成25年度第7回理事会報告	40
研修会等申込書	47

Column & Information

・イエローケーキ	43
・学術講演会・研修会等の開催予定	44
・求人情報	46

新年 賀 謹

平成26年 元旦

本年もよろしく願いいたします

顧問	顧問	顧問	顧問	監事	監事	副会長	副会長	会長
中澤	岩田	國定	橋本	佐藤	乙井不二夫	白木	葛西	篠原
靖夫	拓治	忠彦	宏	清榮		尚	一隆	健一

理事 (第四地区)	委員長 (第二地区)	委員長 (第二地区)	理事 (第一地区)	理事 (情報)	理事 (SR推進)	理事 (福利調査)	理事 (広報)	理事 (学術教育)	理事 (編集)	理事 (涉外)	理事 (庶務)	理事 (経理)	理事 (総務)
高橋潤一郎	平瀬	藤田	眞田	安宅	森	江田	高坂	市川	浅沼	大室	野口	関	石田
	繁男	賢一	鮎子	里美	俊	哲男	知靖	重司	雅康	正巳	幸作	真一	秀樹
事務局	委員長 (災害対策)	委員長 (第十六地区)	委員長 (第十五地区)	委員長 (第十四地区)	理事 (第十三地区)	委員長 (第十二地区)	理事 (第十一地区)	理事 (第十地区)	理事 (第九地区)	委員長 (第八地区)	委員長 (第七地区)	委員長 (第六地区)	理事 (第五地区)
引地	武田	工藤	原子	内山	川崎	鈴木	千葉	大地	飯島	島田	田川	岡部	小野口
春枝	聡司	年男	満	秀彦	政士	晋	利昭	直之	利幸	豊	雅人	博之	敦

巻頭言



年頭所感

会長 篠原健一

平成26年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

平素は本会事業の推進につきまして、ご理解ご協力をいただき深く感謝申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

以前（2012年3月号）「未来からの投影」ということを書きました。ビジョンというのは、望ましい姿・あるべき姿、訪れる未来から現在に投影して今何をすべきか考えることだと思っています。2020年の東京オリンピックが決まりました。領土・歴史認識などによる近隣諸国との軋轢、TPP交渉、アベノミクス第三の矢（成長戦略）など、場当たりでは解決不能な問題が山積となっています。高い目標設定と適切な処理能力が求められます。

われわれ診療放射線技師も、国民の皆さんの信頼に応え、医療安全の確保、医療および公衆衛生の向上に寄与すべく、さまざまな方策を展開しなければなりません。公益社団法人日本診療放射線技師会、日本放射線技師連盟では各方面に政策を説明しています。

①がん対策基本計画に基づく診療放射線技師の充実及び環境整備

②チーム医療を推進するための診療放射線技師の活用

③医療安全のための適切な管理体制の構築

1) 医療放射線による被ばくの管理体制 2) 放射線関連医療機器の管理体制 3) 画像データの管理体制

④養成教育の四年制大学化への移行及び卒後臨床研修の制度化

⑤緊急被ばく並びに医療被ばくに対応するための専門官の配置

⑥放射線の教育・普及啓発活動に対する診療放射線技師の活用

⑦診療放射線技師法の改正

などです。

特に、昭和26年6月11日に交付されて以来、基本的には当時のままである「診療放射線技師法」の改正、業務の適切な評価のための診療報酬改訂に向けた「画像精度管理料」などの新設などは、喫緊の課題と考えます。

チーム医療推進に伴う診療放射線技師の業務範囲の拡大についても、日本診療放射線技師会と連携を図り事業を進めている所ではありますが、造影後の抜針・止血、注腸検査、RI装置の位置付けなどに対する具体的な安全管理セミナーなども含め、次年度以降も適切なタイミング、頻度も合わせて事業計画に盛り込む所存であります。

今年は公益社団法人移行後最初の役員選出による体制が任期（2年）を迎えます。この間、法人名変更（東京都放射線技師会→東京都診療放射線技師会）をはじめ、本会発足以来団体としては初めてとなる東京都功労者表彰受賞（平成24年10月）、厚生労働大臣感謝状拝受（平成25年3月）などがあり、会員各位の多大なるご支援、ご協力に改めて感謝申し上げます。

昨年も、国内・海外において甚大な人的被害を伴う自然災害が頻発しました。本会会員からも、フィリピン中部へ「国際緊急援助隊・医療チーム」として派遣された方もいらっしゃいました。3.11の時に、かの国も医療チームなどを送ってくれました。あれから間もなく3年がたとうとしています。それぞれの地域の一日も早い復興を願うと同時に、のど元を過ぎて熱さを忘れないよう、技師会としても「災害対策委員会」を中心に取り組んでまいります。

今年も、皆さまにとりましてすばらしい年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

会 告 1

公益社団法人東京都診療放射線技師会 定款及び諸規程の改正案に関する意見募集について

平成26年1月1日
公益社団法人東京都診療放射線技師会

会員の皆さまにおかれましては、いつも本会事業に対しましてご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

さて本会は、平成24年4月1日に「公益社団法人」に移行し、新たな定款のもとで活動して2年が経過します。より一層の公益性・公開性に基づいた事業活動を行い、国民の皆さまから信頼され必要とされる職能として社会的責任を果たす所存です。

このたび定款改正および役員の報酬に関する規程の提案を行うこととしました。本提案について会員の皆さま方から広くご意見をいただきたく、下記の方法によりお聞かせ願いたく存じます。

なお提出していただいたご意見に対する個別の回答はいたしかねますので、その旨ご了承願います。
新年のお忙しいなか誠に恐縮ではございますが、何とぞご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

記

・募集期間

平成26年1月1日(水) から平成26年1月30日(木) まで

*定款改正(案)および役員の報酬に関する規程(案)は、本会ホームページにてご確認ください。

・提出方法

お名前と連絡先(電話番号)を明記の上、下記まで郵送・FAX・電子メールのいずれかでお寄せください。

電子メールで送付される場合、件名は「定款諸規程パブリックコメントの件」としてください。またコンピューターウイルス対策のため、ご意見はメール本文中にお書きください。添付ファイルは開くことはできません。

いただいたお名前・住所・電話番号などは、ご意見の内容に不明な点があった場合の連絡以外の用途では使用いたしません。

・送付・お問い合わせ先

公益社団法人東京都診療放射線技師会 定款諸規程検討委員会

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-22-1 ステーションプラザタワー505

TEL・FAX 03-3806-7724

E-Mail tart@tart.jp

以上

“新春のつどい”のご案内

年初めの恒例となっております、本会主催による「新春のつどい」開催のご案内を申し上げます。

新春を迎えるにあたり、日頃ご交誼をいただいております放射線関連・学校教育機構・関係諸団体・本技師会各位が一堂に会し、新年の抱負を語り、また、情報交換の場としてご歓談いただき、親交を深めていただきたいと存じます。お誘い合わせのうえ、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

記

開催日時：平成26年1月15日（水）

受付 18時00分～

開宴 18時30分～20時00分

開催場所：「ホテルラングウッド」飛翔の間

荒川区東日暮里5-50-5 Tel 03-3803-1234

JR日暮里駅南口下車 徒歩1分

次 第

- 1) 開会のことば
- 2) 会長挨拶
- 3) 来賓挨拶
- 4) 乾杯
- 5) 懇親（名刺交換）
- 6) 閉会の言葉



会 費：6,000円

新卒かつ新入会員の方は無料です。奮ってご参加ください。

申込方法：本会事務所へFAXにてお申し込みください。

（会誌綴込みのFAX用紙をご利用ください）

問い合わせ：公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上

第51回きめこまかな生涯教育 テーマ「乳房撮影—精度管理」

第51回きめこまかな生涯教育は、乳房撮影装置の精度管理を取り上げます。乳房撮影装置は日々の点検に加え、高い精度管理が必要とされています。今回は装置の精度管理を中心に実践的な講義をしていただく予定です。

多くの方の参加をお待ちしております。

～プログラム～

- | | |
|-------------|---|
| 14:30—15:30 | 「マンモグラフィの基礎物理 装置の構成、特性X線、スペクトル」
公益財団法人東京都医療公社東京都がん検診センター 高嶋 優子 氏 |
| 15:35—16:35 | 「品質管理—受入試験、日常管理」
公益財団法人東京都医療公社東京都がん検診センター 萩原 弘之 氏 |
| 16:40—17:40 | 「装置評価—胸壁端の評価、AECの評価、焦点評価」
さいたま赤十字病院 岡田 智子 氏 |
| 17:45—18:45 | 「線量・線質（平均乳腺線量算出まで）」
東京慈恵会医科大学附属柏病院 飯嶋 恵 氏 |

記

日 時：平成26年1月11日（土）14時30分～18時45分（受付開始14時00分～）

場 所：公益社団法人東京都診療放射線技師会研修センター

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-22-1 ステーションプラザタワー505

ア ク セ ス：JR日暮里駅北口改札 東口方面より徒歩3分

受 講 料：会員3,000円、非会員10,000円（当日徴収）

申 込 方 法：東放技ホームページ（<http://www.tart.jp/>）の参加申し込みフォーム、または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

カウント付与：日本診療放射線技師会学術研修4.0カウント付与

問い合わせ：学術教育委員長 市川重司 Mail：gakujiu@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上

第28回 日暮里塾ワンコインセミナー ～入会促進セミナー～

今回のワンコインセミナーは、平成25年度に発表された演題の中から学術教育委員会が興味深いものを厳選し、再度お話しをいただく企画をいたしました。

今回で3回目になる企画で毎回多くの方に参加されております。学会へ参加できなかった方、参加していたが聞けなかったという方、再度聞きたい方など、多くの方の参加お待ちしております。

今回は入会促進セミナーということで参加費無料となっております。

～学術教育が選んだ発表演題～

1. 神経内科領域におけるI-MIBGシンチグラフィの早期終了プロトコル（MIBG SGHルール）について
公立昭和病院 鈴木 晋 氏
2. VSRAD advanceの臨床における有用性の検討
北里大学北里研究所病院 塩谷 修伴 氏
3. 手部撮影におけるMagnet Centerの撮影の検討
河北総合病院 大地 直之 氏
4. 当院における一次読影の現状について～日当直時におけるCT検査から～
昭和大学病院 中井 雄一 氏
5. マンモグラフィ検査における業務支援・指導に関する意識調査
JR東京総合病院 龍尾香朱美 氏
6. 乳房温存手術後の放射線治療における皮膚線量について—ガウン着用は放射線皮膚炎を増悪させるか？—
日本大学医学部附属板橋病院 松下 淳一 氏
7. 透視装置使用時の術者の被ばく低減の一考察
公立福生病院 熊谷 果南 氏
8. 低管電圧（70KV）を用いた小児心臓X線CT検査における造影剤減量の検討
昭和大学横浜市北部病院 守屋 克之 氏
9. 自動管電圧設定機能を用いた腹部CT検査における線量低減の検討
東邦大学医療センター大森病院 小久保 忠 氏

記

日 時：平成26年1月21日（火）18時30分～20時30分

場 所：公益社団法人東京都診療放射線技師会研修センター

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-22-1 ステーションプラザタワー505

ア ク セ ス：JR日暮里駅北口改札 東口方面より徒歩3分

受 講 料：無料

申 込 方 法：東放技ホームページ（<http://www.tart.jp/>）の参加申し込みフォーム、または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。※当日参加も可能です。

問い合わせ：学術教育委員長 市川重司 E-Mail：gakujiu@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上

平成25年度診療放射線技師基礎技術講習 「放射線治療」開催のお知らせ

主催：公益社団法人日本診療放射線技師会 実施：公益社団法人東京都診療放射線技師会

このたび平成25年度診療放射線技師基礎技術講習「放射線治療」を開催いたします。

この基礎技術講習では公益社団法人日本診療放射線技師会が定めた、学習目標に沿った講義を行います。診療放射線技師として、そして医療の担い手として必要な基礎知識と技術を身につけ、医療及び保健、福祉の向上に努めることを目的としております。

今回の開催は全国的に一定レベルのセミナーを普及・拡大させ、全ての診療放射線技師が受講できる環境を整えるように計画されたものであります。また学習目標の理解度の判定として全講義終了時に臨床技能検定を実施します。多くの方の参加をお待ちしております。

記

日 時：平成26年1月26日(日) 8時55分～(受付開始8時30分～)

場 所：公益社団法人東京都診療放射線技師会研修センター

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-22-1 ステーションプラザタワー505

ア ク セ ス：JR日暮里駅北口改札 東口方面より徒歩3分

受 講 料：会員3,000円、非会員6,000円(ただし検定試験料1,000円を含む)

申 込 方 法：JART情報システム内のイベント申し込みメニューからお申し込みください。

注) 東放技事務局および東放技のHPからの申し込みはできません

受講料振込等：お申し込み後、日放技より振込み先等の案内があります。

講習会修了基準：次のいずれかに該当する場合は、修了とみなしません。

ア) 講習時間(6時間)に対し、欠課の合計時間が60分を超えた場合

イ) 欠課が15分を越えたコマが1つでもあった場合

生涯学習カウント：修了者は「学術研修」カウントが付与されます(Basicカード以上の保持者のみ)

締 め 切 り：平成26年1月12日(日)

以上

プログラム

限	時間	科目	講師名(所属)
	8:55～	開講式・オリエンテーション	
1	9:00～9:45	放射線治療概論	遠藤 裕二 (日本大学医学部附属板橋病院)
2	9:45～10:30	外部照射一照射技能1	高木 正人 (杏林大学医学部附属病院)
3	10:40～11:25	外部照射一照射技能2	岩井 譜憲 (昭和大学藤が丘病院)
4	11:25～12:10	外部照射一治療計画	橋本 竹雄 (がん研有明病院)
5	13:00～13:45	外部照射一品質保証・品質管理	伊藤 照生 (東邦大学附属佐倉病院)
6	13:45～14:30	外部照射一放射線計測	佐藤 洋 (日本医療科学大学)
7	14:40～15:25	密封小線源治療	丸山 靖 (杏林大学医学部附属病院)
8	15:25～16:10	放射線安全管理・リスクマネジメント	筑間 晃比古 (東京医科大学病院)
9	16:20～16:50	臨床技術能力検定	
	16:50～	閉講式	

第12回ウインターセミナー テーマ「CT&MRI for 急性期脳血管障害」

第12回ウインターセミナーは急性期脳血管障害（CVD）について勉強したいと思います。この領域の検査・画像診断はCT、MRI、Angioが代表されます。特に急性期のファーストチョイスとしてCT、MRIは欠かせない検査と考えます。セミナーでは解剖（脳血管）、検査手技、画像診断と四部構成で行います。多くの方の参加をお待ちしております。

—プログラム—

- | | | | | |
|----|-------------|--|---------------|---------|
| 1部 | 15:00～15:30 | 「Anatomy and basic of Cerebral blood vessel」 | 帝京大学医学部附属溝口病院 | 池田 麻依 氏 |
| 2部 | 15:30～16:10 | 「CT-examination of CVD」 | 東京医科大学病院 | 平瀬 繁男 氏 |
| 3部 | 16:20～17:00 | 「MRI-examination of CVD」 | 東京大学医学部附属病院 | 鈴木 雄一 氏 |
| 4部 | 17:00～18:00 | 「Diagnostic imaging of CVD」 | 東京通信病院 放射線科部長 | 土屋 一洋 氏 |

記

日 時：平成26年1月25日（土）15時00分～18時00分
 場 所：東京医科大学 研究教育棟4階第2講堂 新宿区西新宿6-7-1
 ア ク セ ス：JR新宿駅下車 西口より徒歩11分
 都営大江戸線都庁駅前 7分
 東京メトロ丸の内線西新宿駅下車 徒歩1分
 参 加 費：会員1,000円、非会員5,000円、一般・新卒かつ新入会員ならびに学生 無料
 定 員：100名（定員になり次第締め切ることもあります。）
 申 込 方 法：東放技ホームページ（<http://www.tart.jp/>）の参加申し込みフォーム、または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。
 カウント付与：日本診療放射線技師会学術研修3.0カウント付与
 問い合わせ：学術教育委員長 市川重司 Mail：gakujiu@tart.jp
 公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上

第6回MRI集中講習会

第6回MRI集中講習会を開催いたします。今回は重要な部分は少し時間を多めにとり、より詳細な講義をしていただき、基礎から復習まで幅広く学べる内容となっております。また認定資格を目指す方にも最適な内容となっております。過去の試験問題なども交えながら講義を行います。

多くの方の参加お待ちしております。

プログラム

10:15～11:30	MRI原理（基礎）	宮崎 功（杏林大学医学部付属病院）
11:35～12:50	パルスシーケンスおよび高速撮像法（パラレルイメージング）	高橋 順士（虎の門病院）
12:50～13:35	昼食	
13:35～14:35	アーチファクト	野中 孝志（公立福生病院）
14:40～15:55	脂肪抑制	北川 久（東京慈恵会医科大学附属第三病院）
16:00～17:00	安全管理	土橋 俊男（日本医科大学病院）

記

日 時：平成26年2月2日（日）10時15分～17時00分（受付開始9時30分～）

場 所：公益社団法人東京都診療放射線技師会研修センター

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-22-1 ステーションプラザタワー505

ア ク セ ス：JR日暮里駅北口改札 東口方面より徒歩3分

受 講 料：会員3,000円、非会員10,000円（当日徴収）

申 込 方 法：東放技ホームページ（<http://www.tart.jp/>）の参加申し込みフォーム、または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

カウント付与：日本診療放射線技師会学術研修5.5カウント付与

問い合わせ：学術教育委員長 市川重司 Mail：gakujitu@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上

平成25年度 多摩支部研修会

「ザ・MRI撮影～基本の基本から救急撮影、そしてトラクトグラフィまで～」

講師 東京大学医学部附属病院 鈴木 雄一 氏

今回の多摩支部研修会のテーマは「MRI」です。東京大学医学部附属病院のMRI検査室でご活躍している鈴木雄一技師に、いまさら聞けないMRI撮影の基礎の基礎から最先端のテンソル撮影、トラクトグラフィに至るまで幅広くお話を伺います。また昨今、夜勤時間帯におけるMRI撮影が必須となってきています。この症例には、どのシーケンスが最優先されるのか？ このDWIは発症どのくらいの脳梗塞なのか？ T2W、T1WよりFLAIRとT2スターが重要な？ など、一人で心細く夜勤時間帯に撮影している方に役に立つ情報が盛りだくさんです。少しでもMRI撮影に興味がある方は、ぜひご参加ください。お待ちしております。

記

日 時：平成26年2月7日（金）19時00分～20時30分（受付開始18時30分）

場 所：国分寺労政会館 4階第4会議室

アクセス：JR中央線「国分寺駅」南口下車 徒歩5分

受講料：診療放射線技師1000円、一般、新卒かつ新入会員ならびに学生 無料

申込方法：東放技ホームページ（<http://www.tart.jp/>）の参加申し込みフォーム、または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

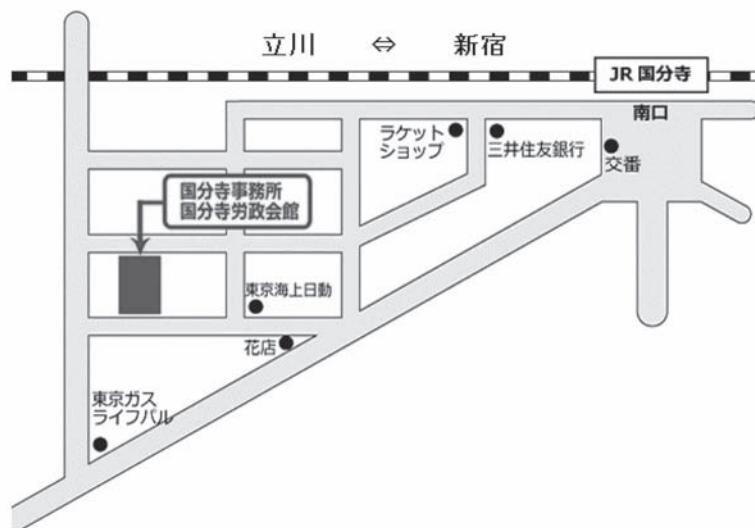
問い合わせ：多摩支部委員会 E-Mail：shibu_tama@tart.jp

第12地区委員長 鈴木 晋

第13地区委員長 川崎 政士

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上



第29回 日暮里塾ワンコインセミナー

テーマ「いま、あらためて硫酸バリウムの基礎を勉強しましょう」

講 師：堀井薬品工業株式会社 前田 英彦 氏

今回は硫酸バリウムを取り上げます。胃X線検査、大腸X線検査に使用する硫酸バリウムは何げなく使用しておりますが、物理的特性などは意外と知らない方が多いのではないかと思います。

良い検査をするためには撮影技術は絶対ですが装置、造影剤（硫酸バリウム）についての理解も重要です。今回、硫酸バリウムの基礎となる、濃度、粒度、粘性について学び、より良い検査が実施できるよう勉強したいと思います。多くの方のご参加をお待ちしております。

記

日 時：平成26年2月18日（火）19時00分～20時30分（受付開始18時30分～）

場 所：公益社団法人東京都診療放射線技師会研修センター

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-22-1 ステーションプラザタワー505

ア ク セ ス：JR日暮里駅北口改札 東口方面より徒歩3分

受 講 料：会員500円、非会員3,000円、一般・新卒かつ新入会員ならびに学生 無料

申 込 方 法：東放技ホームページ（<http://www.tart.jp/>）の参加申し込みフォーム、または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

カウント付与：日本診療放射線技師会学術研修1.5カウント付与

問い合わせ：学術教育委員長 市川重司 E-Mail：gakujitu@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上



平成25年度 城西支部研修会

テーマ：「スーパーレントゲン -100年を超えるレントゲンが生まれ変わる-」
100年続く技術に革命 見えない病気を早期発見 早期診断

講 師：コニカミノルタヘルスケア株式会社 ヘルスケアカンパニー開発統括部
画像応用開発チームリーダー 長束 澄也 氏

『100年を超えるレントゲンが生まれ変わる。100年続く技術に革命、見えない病気を早期発見、早期診断』テレビで放送されとても興味が沸きました。解像度はMRIの100倍と言われています。この装置の進歩によりわれわれの業務内容が変わってくるかもしれません。X線の“ある性質”に着目し、“がんを写す”という画期的な技術を生み出したスーパーレントゲンについて講演していただきたいと思います。

テレビを見逃してしまった方も直接お話を聞けるチャンスです。他職種の方も含め、多くの方に参加していただきたいと考えています。皆さまの参加を楽しみにしています。

記

日 時：平成26年2月28日(金) 19時00分～20時30分(受付開始：18時30分～)

場 所：東京医科大学病院 教育研究棟 3階第1講堂

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-7-1

ア ク セ ス：丸の内線西新宿駅より徒歩1分 JR新宿駅西口より徒歩11分

受 講 料：診療放射線技師1000円 一般・新卒かつ新入会員ならびに学生 無料

申 込 方 法：東放技ホームページ (<http://www.tart.jp/>) からの研修会申し込み、または下記メールアドレスへ、件名『城西支部研修会』で氏名(ふりがな)、施設名、所属地区、会員(日放技番号)・非会員、返信先メールアドレスを記載の上、送信をお願いします。

問い合わせ：城西支部委員会 E-Mail: shibu_jyousai@tart.jp

第3地区委員長 平瀬 繁男 東京医科大学病院 TEL: 03-3342-6111 (PHS63317: 16時以降)

第9地区理事 飯島 利幸 日本大学医学部附属板橋病院

第10地区理事 大地 直之 河北総合病院

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX: 03-3806-7724

以上



平成25年度 災害対策委員会研修会 テーマ「緊急被ばく医療講習会～3.11を風化させないために～」

主 催：公益社団法人東京都診療放射線技師会 災害対策委員会

東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故にあたり、公益社団法人東京都診療放射線技師会では、災害直後の被災地におけるサーベイ活動、都内避難所における放射線サーベイボランティア活動など、放射線専門の職能団体として活動を行いました。これらの活動・経験を語り継ぎ風化させないために、今回の内容を企画しました。皆さまの参加をお待ちしております。

プログラム

限	タイトル	講 師
1	サーベイメータの取り扱い	国立病院機構災害医療センター 診療放射線技師 複数名
2	養 生 実 習	
3	タイベックスーツ着脱実習	
4	クイックサーベイ実習	

記

日 時：平成26年3月8日(土) 15時00分～18時00分(受付開始14時30分～)

場 所：公益社団法人東京都診療放射線技師会研修センター

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-22-1 ステーションプラザタワー505

ア ク セ ス：JR日暮里駅北口改札 東口方面より徒歩3分

定 員：50名(先着順)

受 講 料：会員1,000円、非会員5,000円(当日徴収)

申 込 方 法：東放技ホームページ(<http://www.tart.jp/>)の参加申し込みフォーム、または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

カウント付与：日本診療放射線技師会学術研修3.0カウント付与

問い合わせ：災害対策委員長 武田 聡司 E-Mail: saigai@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上



第12地区研修会 テーマ「320列CTを導入して～新たな領域へ～」

講師 公立昭和病院 荒木 政章 氏

今回の第12地区研修会のテーマは「320列CT」です。公立昭和病院では、最新鋭の東芝社製Aquilion ONE Vision Edition（320列CT）を平成25年春に導入し、日々の検査に活用しています。そこで、導入への苦労話から現在行われている、さまざまな検査についてCT担当の技師からお話を伺います。64列CTと検査内容はどのように違うのか？ 患者さんへの被ばくはどうか？ 新たな領域の検査とは？ など、これから320列CTを導入するという施設の方、また少しでもCTに興味がある方はぜひご参加ください。お待ちしております。

記

日時：平成26年1月18日（土）15時30分～16時30分（受付開始15時00分～）

場所：公立昭和病院 本館講堂1・2

アクセス：西武新宿線「花小金井駅」北口下車 徒歩15分

立川バス（寺51昭和病院（前）行、又は寺56大沼団地行）「昭和病院前」下車（花小金井駅より乗車5分）

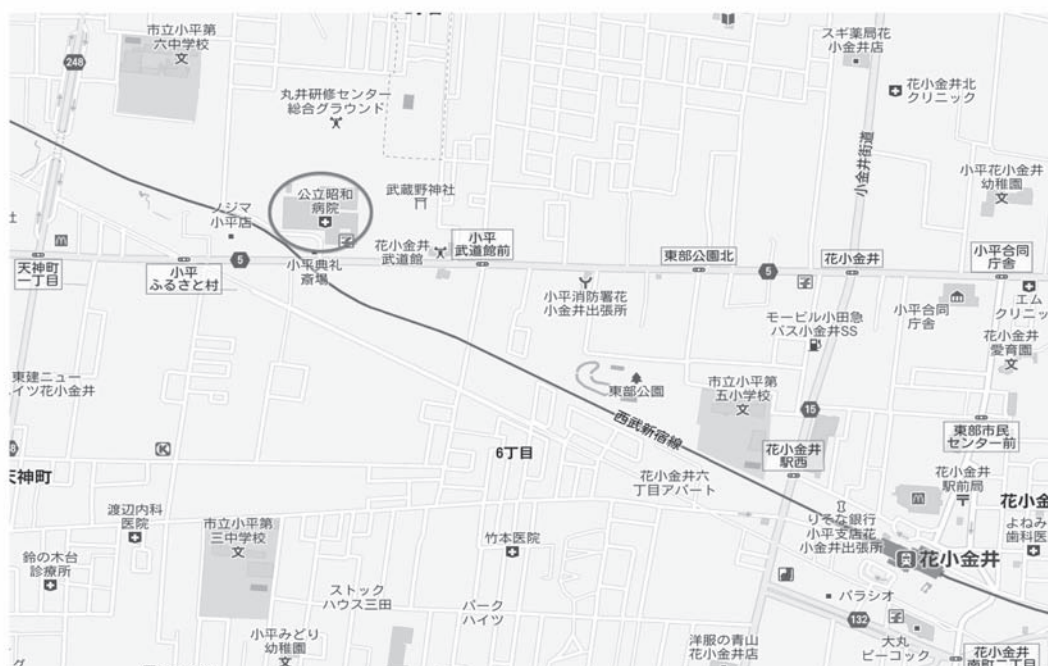
受講料：診療放射線技師500円、一般・新卒かつ新入会員ならびに学生 無料

申込方法：東放技ホームページ（<http://www.tart.jp/>）の参加申し込みフォーム、または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

問い合わせ：第12地区委員長 鈴木 晋 Mail：area12@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上



お知らせ 2

平成25年度 第8地区研修会 テーマ「見逃されていた赤血球と白血球の働き」

講師：松元生細胞研究所 所長 松元 司 氏

普段、血液や顕微鏡を見ることはありませんが、貴重な研究内容を話していただけることになりました。会員、非会員に関わらず一般の方もぜひお誘いの上、ご参加ください。

記

日 時：平成26年1月24日（金）19時00分～20時30分（受付開始：18時30分～）

場 所：東邦大学医療センター大森病院 5号館地下1階臨床講堂
〒143-8541 東京都大田区大森西6-11-1

ア ク セ ス：JR蒲田駅東口 バス7分 「大森駅行（2番のりば）」にて「東邦大学」下車
JR大森駅東口 バス20分 「蒲田駅行（1番のりば）」にて「東邦大学」下車
京浜急行梅屋敷駅 徒歩7分

受 講 料：診療放射線技師500円、一般・新卒かつ新入会員ならびに学生 無料

問い合わせ：第8地区委員長 東邦大学医療センター大森病院 島田豊 E-Mail：area08@tart.jp
第8地区副委員長 東 芝 病 院 鎌田治 E-Mail：osamu.kamata@toshiba.co.jp
公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上

—松元司先生のプロフィール—

「生きている細胞を見なければ、病気の本態を見ることができない」
整形外科医でありながら30年間の臨床を辞し、英国バーミンガム大学リウマチ部門名誉研究員として2年の研究をしました。その時に“動く赤血球”を偶然に見つけます。
帰国後開業し、直ちに研究所を開設し以後20年にわたり血液や細胞の研究を続けてきました。
生きている血液を観察することで、全く新しい発見と仮説が出てきました。
今までの医学の常識とは大きく異なり、国内の学会では発表されていませんが、海外では
2003年 Leaders of Science（米国ABI）
2004年 New York Academy of Sciences：Active Member（米国）
2005年 TOP 100 SCIENTISTS（英国IBC）
上記のような、科学者のリーダーだと評価されています。

平成25年度 第5地区研修会

『第5地区のつどい』

テーマ「これは知っておきたい画像の見え方・見方～消化管・CT・MRI編～」

今年も第5地区において、好評をいただいております地区研修会「第5地区のつどい」を開催致します。この研修会は、演者と皆さまが活発に議論することにより、知識を深めることを趣旨とした勉強会です。

今回は、なぜ〇〇に見えるのか？ どうして△△が画像の特徴として現れるのか？ など、今さら聞けない疑問が解決できる、臨床をベースとした内容となっております。

また研修会後は意見交換会をご用意しておりますので、演者の方々とご参加いただいた皆さまの交流をさらに深めて、地域医療の発展に繋げていただければ幸いです。多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

記

日時：平成26年2月21日（金）19時00分～20時30分（受付開始18時30分～）

場所：東京大学医学部附属病院 中央診療棟 1 13番受付裏カンファレンスルーム
〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1

アクセス：丸の内線 本郷三丁目駅2番出口 徒歩約10分
大江戸線 本郷三丁目駅5番出口 徒歩約10分
千代田線 湯島駅1番出口 徒歩約15分

受講料：診療放射線技師500円、一般・新卒かつ新入会員ならびに学生 無料

申込方法：東放技ホームページ（<http://www.tart.jp/>）の参加申し込みフォーム、または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。（※当日参加も可能です）

問い合わせ：第5地区委員 東京大学医学部附属病院 鈴木 雄一 E-Mail：area05@tart.jp
公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上

プログラム

1, 「消化管編」	東京北社会保険病院	關 良充
2, 「CT編」	順天堂大学附属順天堂医院	稲毛 秀一
3, 「MRI編」	東京大学医学部附属病院	鈴木 雄一

東京都功労者表彰



医療法人社団 康生会
シーエスケー・クリニック新橋 技師長

たけ だ かず おみ
武田 一臣

昭和26年7月29日生（62歳）

経 歴

昭和46年4月	城西放射線技術専門学校	入学
昭和49年3月	同	卒業
昭和45年4月～昭和49年6月	PL東京健康管理センター	入職
昭和49年7月～昭和52年12月	昭和大学藤が丘病院	入職
昭和53年1月～平成17年9月	PL東京健康管理センター	入職
平成17年9月～	医療法人社団 康生会 シーエスケー・クリニック新橋	入職
現在に至る		

団体歴

平成元年4月～平成21年3月	社団法人東京都放射線技師会	地区委員
平成3年4月～平成7年3月	社団法人東京都放射線技師会	経理幹事
平成2年11月	社団法人東京都放射線技師会	40周年記念誌編纂委員
平成12年12月	社団法人東京都放射線技師会	50周年記念誌編纂委員
平成15年6月～	城西放射線技術専門学校・城西医療技術専門学校・日本医療科学大学	同窓会会長

賞罰歴

平成16年5月	社団法人東京都放射線技師会	小野賞
---------	---------------	-----

東京都功労者表彰をうけて

武田一臣

この度、公益社団法人東京都診療放射線技師会の推薦により、平成25年10月1日に東京都庁第一本庁舎5階大会場で「東京都功労者表彰」を受賞致しました。

受賞に際し篠原健一会長はじめ各理事、表彰委員会から推薦いただいたことに、心から感謝申し上げます。また審査書類の作成過程では大室正巳理事に大変お世話になりました。厚くお礼申し上げます。

私は昭和49年に診療放射線技師の免許を取得致しました。その後、技師の仕事の全体を知りたいとの思いから、同年7月に、新しく開設された昭和大学藤が丘病院のオープニングスタッフとして勤務させていただきました。このときの初代技師長、鍵田政雄先生との出会いがその後の私の人生を決めたように思います。

技師会には免許取得と同時に入会致しました。先輩からのお誘いもあって、第4地区の地区委員として技師会活動に携わることになりました。その後は地区理事や経理幹事、40周年と50周年の記念誌編纂委員としてお手伝いをさせていただきました。特に2年間原稿を書き続け、毎月「東京放射線」に掲載した「想いあれこれ」は楽しい思い出です。

現在は旧城西技師学校、JJN同窓会長として全国をまわっています。同窓会活動の活性化と技師会活動は似たところがあります。技師会で学んだことを生かしながら、活動を続けさせていただきたいと思います。

仕事では健診業務に従事しております。職場環境に恵まれ、大変感謝しております。

最後に今後とも公益社団法人東京都診療放射線技師会のますますのご発展と、会員の皆さまのご健康とご活躍をお祈り申し上げ、お礼と感謝の言葉に代えさせていただきます。ありがとうございました。

武田一臣様の東京都功労者表彰の祝辞

会長 篠原健一

この度の平成25年度東京都功労者表彰（知事表彰）におきまして、本会会員として多年にわたりご活躍された武田一臣様が受賞されましたことをご報告し、心よりお祝いを申し上げます。このことは都民の医療・福祉の第一線で活動している本会会員にとりましても誠に誇りと名誉ある受賞であり慶びに堪えません。

武田様は昭和49年に城西放射線技術専門学校を卒業され診療放射線技師免許を取得されて以来39年以上の永きにわたり診療放射線技師として予防医学である健診業務を中心にこの道一筋に奉職されました。健診効率・健診精度・経済性・安全性の4つを目標に掲げ、受診者数の増加にあっても質を落とすことなく診断価値のある画像を提供するべく努力を重ねられました。

本会でも第4地区の地区委員（22ヵ年）、地区理事（4ヵ年）、経理幹事などを歴任され、本会40周年・50周年にはそれぞれ記念誌編纂委員を務められるなど多大なる貢献をされました。

現在も、JJN同窓会長（旧城西放射線技師学校）として全国をまわられるなど、武田様は常に無私の精神を根底に活動を続けられており、常々敬服いたしております。

この度の武田様の受賞は、診療放射線従事者としての国民医療・地域医療に対する功績が高く評価されたものがあります。今後とも本会の発展と後進のためにさらなるご指導を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、武田様のますますのご健勝をお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



平成26年 新春座談会

場所：公益社団法人東京都診療放射線研修センター

後列左より

白木 尚 東放技副会長
篠原健一 東放技会長
葛西一隆 東放技副会長

前列左より

森 清光 駒澤大学放射線同窓会会長
中村宣男 中央医療技術専門学校同窓会会長
武田一臣 JJN同窓会会長

篠原 東放技会長（以下、篠原会長）：皆さま、平成26年の新年を迎えましてあけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。この座談会は、都内にあります診療放射線技師を育成する学校の同窓会会長にお集まりいただきまして、診療放射線技師を取り巻くさまざまな問題などを新年に向けて話合っていきたいと思います。

どうぞ忌憚のないご意見をいただきしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。それぞれの同窓会長に技師会の入会促進などについてのご意見や今抱えている問題、あるいは技師会だけではなく同窓会の活動などについてもお話ししたいと思っています。はじめに技師会側の出席者から一言ずつ簡単にご挨拶とお考えをお願いします。



篠原会長

技師会への入会促進と各学校及び同窓会との連携について

葛西 東放技副会長（以下、葛西副会長）：同窓会は全国組織ですが、今日集まっていた同窓会の方々は主に東京都に在籍しているかと思います。このことを踏まえまして、入会促進になど身近なことを技師会にぶつけていただいて、双方有意義なものにしていけたらと思います。個々に解決の難しい問題などもあるとは思



葛西副会長

ますが、東京都の技師会と同窓会がうまく連携して活動して行けたらと思っています。

白木 東放技副会長（以下、白木副会長）：同窓会長の皆さま、本日はお忙しい中お時間いただきありがとうございます。どうしても技師会からは入会促進の相談ということになりますが、一緒に考えていただき、お力添えをいただけたら幸いです。本会は、60歳以上で10ヶ年以上在籍いただいた会員の方々を会費減額処置（旧プラチナ会員）という制度で、定年退職されても引き続き会員を継続いただくようご案内して、退職退会による会員数の減少を止めたいという活動をしております。しかし、組織率を上げるためには、やはり新入会者を増やしていかなければなりません。同窓会会長の皆さまにお願いしたいのは、今後は同窓会を通じて学生の方々に、もっともっと技師会の存在を知っていただきたいと思っています。たとえば、同窓会と技師会でコラボレー



白木副会長

ションした企画などを実施しても良いと思います。学生の皆さんは病院実習でしか診療放射線技師と触れ合う機会が無いと思います。そのような企画の中では同窓会にも技師会にもたくさん現役の技師がおりますので、交流の機会を持っていただき、技師会を身近に感じてもらうのも良いのではないかと考えています。できましたら、このような企画についてご意見いただけたらありがたいと思っています。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

篠原会長：では本日お越しいただきました都内にある三校の同窓会会長にそれぞれご挨拶いただきたいと思

います。まずは駒澤大学放射線同窓会会長の森清光様
よろしくお願いいたします。

森 駒澤大学放射線同窓会会長（以下、森 会長）：
おめでとうございます。私どもの同窓会は若い方の会
員の活動が非常に少なくなっています。先ほど白木副
会長が言っておりましたとおり、同窓会としても活動



森会長

内容をできるだけ学生さん向
けに進めています。やはり、
学生のうちに同窓会と接する
ことが大切で、昨年9月にシン
ガポールで開催された技師学
会の時に、本校の学生が発表
し私も一緒に同行して現地の
技師とコミュニケーションを
とらせていただきました。また、日本とシンガポールの
学生達と懇親会をセットすることで、技師として幅
広い意識を持ってもらうと共に同窓会がこんな活動も
しているとアピールすることができました。それからも
うひとつ、11月に大学祭の中で同窓会活動として骨粗
鬆症の測定を行っていますが、その時も学生達に参加
してもらい同窓会活動を理解してもらう機会としてい
ます。卒業時には診療放射線技師会の方から入会の手
続きの資料をいただいて、それを配ることもさせてい
ただいております。できるだけ若いうちに同窓会活動
や技師会活動を行っていくことで、技師会の促進にも
なると思っていますので、この活動は引き続き進めていき
たいと思っています。

またOBからすると実は定年する方が非常に多くなっ
てきており就職の問題も出てまいりました。こういった
問題についても同窓会がしっかりサポートすることが
大切だと考えておりますので、その点についてもい
ろいろと新しいアイデアを持ちながら活動を行ってい
きたいと思っております。

先ほどご提案ありましたコラボレーション企画や交
流の会などへの参加を、学生の内から行っていただ
くと入会もしやすいと思いますので、そういう会にし
ていただきたいと思います。

それから私からお願いがあります。最近の就職状況
では大きな病院よりも小さな病院に務める方が非常に
多くなってきており、いきなり健診センターで働く方
が増えています。実態としてMRIやCT、マンモグラ
フィーに触れない若い技師さんたちが増えております。
病院実習での研修はあると思いますが、社会人になっ
てからの経験や勉強が大切だと思いますので、そうい
った若い技師さんたちにコミュニケーションをとる企画
を、技師会として沢山入れていただいた方が動きやす

いと思います。同窓会活動も同様にやらせていただい
ているのが現状でございます。

篠原会長：ありがとうございます。では、続いて中央
医療技術専門学校同窓会の中村宣男会長よりしくお願
いいたします。

**中村 中央医療技術専門学校同窓会会長（以下、中村
会長）：**皆さま、新年明けましておめでとうございます。
篠原会長の方から技師会入会に対して諸問題があ
ればということですが、まず同窓会としての中央医療
技術専門学校の概略は、全国には現在18支部があり会
員も6,899名でそろそろ大台7,000名になるところです。
東京都には東京支部というのは無く本部という形にな
るのですが、本部としては常に月1回の役員会と、年に
1回（6月最終土曜日）の中央放射線学会を開催して
おり、そこでは学生にも発表の機会を提供しております。

技師会の入会につきましてはやはり“コミュニケー
ション”、先ほど森会長からもありましたか学生のう
ちから、いかに技師会に関わ
っていくかという問題が大きい
と思います。中央医療技術専
門学校の学生は授業以外に運
動会や文化祭があります。そ
の時に技師会として何らかの
形で参加しては良いのではな
いかと思います。それには校



中村会長

長先生と話し合いをもってアイデアを出し合い参加し
てもらうことで、学生の方も「技師会はこんなことを
やっているんだ」と感じ取れるのではないかと思います。
あと問題としては、学生が卒業して国家資格を得
た時に間髪入れずに入会してもらうことが一番大切で
あると思います。私などはそろそろ50年になりますが、
われわれの時代は卒業と同時にすぐ技師会に入会しま
した。その他には会費の問題もあるのではないかなと
思います。東京都診療放射線技師会（以下、東放技）
だけでなく日本診療放射線技師会（以下、日放技）の入
会費が加わり、そして技術学会も合わせると年間約4
万円以上となりますが、新社会人が払うという事を考
えると入会を躊躇するのではないかと思います。まあ、
遊ぶ金を考えたら出せるのでしょうかけどやはり簡単で
はないと思います。技師会と技術学会を一緒にすれば
安くできるのではないかと思います。あ、別れた経緯など
を考えると一緒にするという事は難しいのでしょうか、
やはり会費が問題なのではと思
います。それと、技師会に入って研究会もいろいろあ
ると思うのですが、勉強の好きな人はどんどん研究
をしていったりします。会誌だけ読むのではなく、入

会してきた人たちの意欲が掻き立てられるような、魅力を持った技師会に見えるように何かしなくてはいけないのではないかと思います。あくまでも技師会は職能団体ということを意識していただき、全員が入らなくてはならないというのを植え付けていく必要があると考えます。技術学会は技術を研鑽していくというものです。技師会は技術の向上も勿論ではあるが、基本的には職業・われわれ技師の身分向上をさせるための会であるわけですから、そういうところも若い人たちにアピールしていかななくてはいけないのではないのでしょうか。

篠原会長：ありがとうございます。続きまして、JJN同窓会の武田一臣会長お願いしたいと思うのですが、JJNの名称の詳細も含めてお話ししていただけたらと思います。

武田 JJN同窓会会長（以下、武田会長）：皆さま、明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。いま篠原会長よりお話しがあったJJN同窓会の名称についてですが、3つの学校の



武田会長

頭文字をとって名づけました。最初のJは現在も夜間の専門学校として診療放射線技師の育成を行っています、城西放射線技術専門学校（池袋、椎名町）です。次のJは城西医療技術専門学校（埼玉県毛呂山町）ですが、時代の流れに沿って平成21年に閉校し大学へと移行しました。その大学が日本医療科学大学です。（N）開学したのは平成19年となります。この大学では放射線学科だけでなく、理学療法学科や作業療法学科に加え、3年前から看護学科と臨床工学科も開学いたしました。同窓会としては、すべての歴史を残すことが必要だろうと思いましたので、閉校した学校名を加えた「JJN同窓会」という名称に至りました。

最初のテーマの入会促進についてですが、本校卒業式の時に理事長挨拶のなかで必ず「技師会に入りなさい」というお話しがあります。また在校生に対しては、東放技会長自らが大学に向いて講義の時間を作られておりますので、学生さんの頭の片隅には「技師会」という単語が残っていると思います。私も卒業式の挨拶のなかで、繰り返し入会を勧めています。ですから卒業式当日に、入会案内のパンフレットでも持って来ていただけたらありがたいと思います。それと卒業生は全国に広がっていますので、できましたら全国各地の技師会の連絡先をわかるようにしていただけたら、

地方に帰る人などには良いのかと思います。

同窓会活動につきましては、昨年の1月に念願かないまして北海道の札幌で開催いたしました。これで北向きは北海道から南は九州・四国・沖縄と全国的な組織の活動になったなと思っております。

今回都知事表彰をいただいたときに振り返って考えましたら、同窓会会長をお引き受けして10年が過ぎました。この先どうして行こうかと考えたときに、問題点として、JJN同窓会は新聞や雑誌を発行しており、これにかかる経費が段々無視できなくなってきました。そんな時、新藤博明校長からホームページ（以下、HP）の業者を紹介いただきました。すでにHPはありますが、使い勝手の良いものに改良を加えた、新たなHPを立ち上げたいと検討を始めました。うまくいけば電子化やペーパーレスといった形で雑誌や新聞もなくすことができます。さらに先ほどもお話にあがってありました、就職案内や再雇用の紹介といったことも、各学校と連携し全国規模でできたらと考えています。JJN同窓会の場合は、活動費は卒業生から終身会費として18,000円いただいております。私も高いと思うときがあり、技師会もそうだと思いますが、自分に縁のない人たちから見ると払い過ぎではないかという苦情もある様です。同窓会の意義というのは、やはり国家資格を取って卒業して家庭を持ち、そしてフツと落ち着いたときにはじめて母校のお陰だ、技師会のお陰だという気持ちが芽生えると思うのです。そのような時に同窓会の活動に加わると、さらに感謝の気持ちが芽生えていくものだと思います。そのためにはHPの充実というのは、今後の大きなテーマだと思っています。在校生は父母会、卒業したら同窓会という形で活動を行っていきたく思います。またその中で技師会と一緒に活動できましたら、これもまた大きなメリットが生まれると思います。いろいろな形で診療放射線技師会に情報を提供し、アピールできるような組織として活動していけたらと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

篠原会長：ありがとうございます。先ほど、お三方のお話の中にもいくつか指摘いただきました新社会人には会費が高いのではないかとということについてですが、東放技といたしましては、新入会者は5,000円と減免させていただいて入りやすくする工夫をしております。

また職能団体であるというお話がありました。やはり職能団体としての意識づけも大切だと思います。たとえばフレッシュャーズセミナーを開いて新人の方に技師会の活動や意義を説明したりしています。それから、

さまざまなセミナーや生涯学習的なもの、昨今は業務範囲の拡大といわれておりまして診療放射線技師の業務が従来よりも求められることが多くなってきており、それに対する講習会、研修なども行っております。できるだけ会員はもちろん、非会員の方もこちらを向いてくださるようなことをやっているつもりですが、まだまだ十分だとは思っておりません。なにかその辺で、技師会だけではなく学校や同窓会も含めてご提案などいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

中村会長：中央医療技術専門学校の同窓会としましては、学校に入学した時に永久入会費としていただいております、そこで学生は準会員として位置付けているわけです。たとえば東京都の技師会員として準会員と書かれた呼称の様なものを学生に“あなたを東放技の準会員として認めます”と意味付けたようなものを記念品と一緒に学生に配って、そして卒業したら即正会員になれるような会則を検討すべきだと提言いたします。

あと行っているかとは思いますが、特典として学生は学会発表無料にしていることなどを全学生に知らしめる。東京都の技師会として学生が入学した時全員に準会員としての方向性をつけられれば良い成果がでると思います。われわれ同窓会としては、入学時に準会員と認め意識付けし、退学しない限りは卒業後全員が正会員として同窓会に入ってくるわけです。そのような学校と一体となった技師会ができれば良いかと思います。

篠原会長：準会員のところをもう少し詳しく教えていただけますか。

中村会長：学生会員という形でも良いのですが、学生時代に準会員として認めることが法的に可能であれば、学生になった時点で入会することによって意識も高まるでしょう。

篠原会長：杓子定規に言ってしまうと定款などに組み入れることはかなわないのですが…。

中村会長：そうですね。

篠原会長：ただ、現状において学生さんは基本的に参加など無料になっております。宣伝はしているつもりなのですが、もっと学生に直接語りかけることが大切かもしれないですね。会誌などには記載してあるのですが、結局手元にないとそれまでですからね。やはり、各学校に「学生は無料の催しですよ」と直接案内状をお渡しするというのも、ひとつの手かもしれませんね。

森 会長：それから、学生さん達に技師会の活動が伝わっていない様です。

中村会長・武田会長：そうですね。

森 会長：当然ですが会員であればHPを見たりするのでしょうか、技術学会ですと数は少ないですが大学内にポスターが貼られたりしています。インターネットだけでは無く、そのような情報発信をしていかないといけないと思います。ポスターなどで情報を学校に送っていただければ学生の目に留まりますし、大学ですとゼミがありますから先生方にお話しておくと、ゼミとして学会発表していただけるといったこともあります。また、冒頭でもお話ししましたが、国も国際化をしていまいしょうということで、大学も国際化を進めております。大学側も校外活動を精力的に行わないと補助金も出なくなる状況ですので、このようなことも踏まえてより情報を提供していただきたいと考えます。あるいはゼミの先生方に個別で送っていただけると学生に技師会の活動も伝わりやすくなるのかと思います。

駒澤大学同窓会としましては、新入生が入ると私が講演に行きます。技師の卵たちにご家族の事を聞きますと70名の内たった1割程度しか医療に携わっている人がおらず、残りの方は医療に関係がないご家庭です。講義で診療放射線技師とはどのような仕事をするのかという話をするなかで、社会に出た時に技師会というのがあるのご案内させていただいております。技師会の方からも、こういった講演を入学時にしていただけたらと思います。



もうひとつは、就職セミナーを行うのですが技師会の方から会長・副会長にお越しいただいて講演や職場現状についてお話しいただき、技師会に入ることが新しい道を切り開くことにつながるということを積極的に行っていただきたいです。そうしますと、同窓会といたしましてもバックアップがしやすくなりますので、そういった働きかけをしていただくとありがたいです。

武田会長：同窓会の会議は学校で行なっていますが、教室入り口の掲示板に求人案内などが張り出しており、学生も熱心に見ているようです。ですからA4くらいの用紙に技師会活動などの広報を、定期的に送って掲示してもらうのも効果があると思います。

篠原会長：そうですね。技師会と各学校や同窓会との連携ということでいろいろ提供できることはあると思う

のですが、具体的になりますと私自信も力不足で動いていない部分もあります。今のところ年に一度ですが日本医療科学大学に授業の時間を1時間30分いただいております。学生のうちから技師会の必要性や存在理由など、先ほども職能団体であるとお話が出ましたが、われわれ技師会が厚生労働省との唯一の窓口であるといったことを含めてお話するお時間をいただいております。そういった機会を学校ごとにいただけると本当にありがたいです。

— 同：そうですね。

篠原会長：むしろお願いしてでもやらせていただきたいと思います。お手元に講義内容の資料をお配りしております。ただそれは同窓会というお話ではないので、あらためて学校の方にお話しをしたいと思います。

森 会長：どちらかといいますと、入学直後の方が学生に時間の余裕がありますので、学校生活を送るためのガイダンスの中でこういったものを行っていただく方が良いかと思います。また同窓会総会の中で来賓をお招きすることもございますので、ゲストの前にスピーカーとして入っていただくのもまた良いかもしれません。

白木副会長：確かに実習で学生が来るのは2年次3年次で、入学して間もない時期に診療放射線技師はどういった仕事をしているのかなど、実際に技師の方々と話をする中で、動機づけになるのかと思います。

先ほど、中村会長が仰っていた準会員というご提案もすごく良いと思います。定款上は難しいですが、学生無料といって講習会に参加を呼び掛けてもなかなか参加していただけないので（アピールも足りないと思いますが）、技師会から学校に出向いてセミナーなどを開いたら良いのかなと思います。それに参加された学生の方々には、何か記念や記録になるものを差し上げて、そして会員になるときに提示していただけたら特典を差し上げるなどできればなお良いと思います。

中村会長：そうですね、ただ実際に行動に移さないと行けないと思います。定款のことなど考えてしまうと動きが鈍くなってしまうと思うので、まずは良い方法を考え行動に移した方が良いと思います。

白木副会長：そうですね。

中村会長：あと、どうしても技師会のほかに技術学会があるわけですね。若い人たちはどうしても技術に偏って、技術学会のみに入ってしまう。それで良いと思っている人たちが多く存在する。それに、実際には技師会に入っているか否かで差がないですね。差をつけろというわけではないですが、入っていると雑誌

が来るくらいで、やはり技師会に入っていないと困るのだと、いったことはなにもないですね。入ってなくても普通に病院で働いて普通に生活できるわけですから。そういったところが、技師会に飛び込んでこないところの、原因のひとつになっていると思います。

篠原会長：実際に学校で教えている葛西副会長はどう思いますか。

葛西副会長：現実問題としては技師会の活動については一切なにも講義はしていません。ただ卒業時に日放技から入会案内のパンフレットが送られてきますので、謝恩会の時に配るようにしております。個別には技師会に入会しなさいとアドバイスするのですが、全員集まった場所で私個人がお話するといったことはしていません。学生の中には地方に帰る方もおりますので、職場の状況に応じて地方の技師会に入る方もいると思います。学生のうちに講義の中で、技師会のことを話すこともあるのですが、なかなか理解していただけない状況です。また帝京大学も同窓会がありますが、専門学校から大学に移行する時に催しを行ったことはあります。



武田会長：城西の同窓会も同様に近い内容だと思います。私が出た夜間の池袋校は歴史もあり多くの先輩方がおられますが、日本医療科学大学の卒業生は3期くらいでしょうか。ですから歴史が浅いこともあり、大学では同窓会の話題が少ないと聞きました。考えてみれば当然なことなのです。昨年8月に沖縄で開催された同窓会に、初めて大学から二人の先生が参加してくださいました。それまでは毎年校長の新藤博明先生が参加してくださいました。卒業生は仕事の報告などをして楽しそうです。会話の中から自然と母校への感謝の気持ちが湧いてくるようですね。この様子を見て、大学の先生方には同窓会の存在の大切さを感じてくださったのではないのでしょうか。先輩が築きあげてきた歴史を大事にして活動を続け、新しいJJN同窓会をリードしていかなければいけないと思います。

また、HPなどで質問コーナーを設けたり、各支部長さんが直接投稿したりと、いろいろと考えているところ です。

白木副会長：情報発信は非常に大切なことだと思うのですが、各大学の同窓会もHPがあればリンクを張ってお互いに活用する連携ができれば良いと思います。

中村会長：中央医療専門学校や同窓会もHPを持っていますよ。

武田会長：中央医療技術専門学校
のHPは綺麗でよく作って
ありますよね。総会行っても
すぐに更新されますし。

中村会長：ありがとうございます。
同窓会新聞なんかも載
せていますからね。紙面です
と2年に1回ですので、次回は
やめてしまってHPのみにしようかと考えています。

森 会長：私は同窓会の会長をやって10年弱なのですが、これからどうしようかと思っています。HP化を進めると会誌で頂いていた協賛金がなくなってしまいます。そこが難しいところで、HPでは維持管理に協賛金があわないですからね。やはり紙ベースで残さないと業界の方たちが出資してくれないと大変な思いをしております。そして、HPはやればやるだけ費用がかかりますので、そういう問題を考えると紙ベースというのはそれなりの価値があると感じております。

篠原会長に伺いますが、中澤日放技会長に海外の学会でお目にかかるのですが、胸に診療放射線技師のバッジあるいは東放技のバッジをつけていることが、名誉になるようにしていかなければならないと思います。たとえば、国会議員のバッジが表すように東放技のバッジをすることによって、講習会に参加しておりしっかり教育ができていいると胸を張って表すようなものがある方がよいと思います。私が提案しているものは、会員がグランドデザインのみえるものがよいと考えます。ただ現場に合わせて講習会を開催するのではなく、診療放射線技師の未来が見えるものにしていかないといけないのではないか、誰が見てもこの業界がどういう方向を向いているのかが、わかるものがよいと思います。「こういう形で進んでいくのだ！ このシンボルマークで、このバッジで進んでいくのだ！」といったものを作り、それによって「われわれが評価されていくのだ！」というものがなく、具体的な方向性を全体で共有できないため、目に見える形が大切じゃないかと思っています。

同窓会では、2,000円払って何がもらえるの？ 会誌だけなの？ とよく言われます。紙ベースだって編集・印刷に大変な費用がかかります。また、定年を迎えた技師さんたちに技師会の協力をしてもらうプロジェクトがあってもよいのではないのでしょうか？ 定年退職しても同窓会や技師会に入っていることでまた仕事回ってくるのか、そういったことがあってもよいと思います。他の公益法人（財団法人など）も、ビジネスをちゃんとやっておりますからそういったものを作ら



れてもよいと思いますし、公益法人の活動範囲内でやっていくべきだと思います。会費のみに頼らない仕組みを、実は持っています。線量測定やフィルムバッジ、教育なんかもそうです。いろんなことができるパワーがあるはずなのに、それをなかなかできていないのではないかと思います。高齢者の人たちがまだまだ学校で指導するようなこともできますし、そんなグランドデザインを東放技が先頭にたって作られていかれると、もう少し会員や学生さん達にもわかりやすくなるのかと思います。このようなことも、今後力を入れていただけたらと思います。

篠原会長：ありがとうございます。具体的にといいますとなかなか難しいのですが“あるべき姿を提示する”そのために今何をするのか。バックカスティングの考え方です。あと先ほどのバッジもそうですが、つけていることに



誇りを持つということにも繋がると思うのです。われわれの職業に誇りを持てるようなことを示していくのも技師会の役割であるのかと思います。自分の国を愛すると同じように、自分の職業を愛せなかったら、患者さんに優しくできないと思います。（一同賛同）

“こういう技師になるのだ！”というのを示して、そのためには“今これが必要となる”と提示して、これらを積み上げていくことを示してあげることが技師会の役割ではないかと思っています。もちろん各種学会も大切ですが、技術・知識だけではなくて全体の資質を高めることも職能団体として重要だと考えます。

学校も同じですよ、新入生が入って4年後のあるべき姿というのは国家試験に合格している姿、そのために各学年でやるべきことを各々で行っていく。目先のことの積み重ねではなく、未来のために今何をするべきかということだと思います。



中村会長：ちょっと戻って良いですか。ひとつは都内の病院・診療所含めて技師長がどれくらいいるかわかりませんが、その技師長がどれくらいのパーセンテージで技師会に入っているのかということも大切なことだと思います。技師

長が技師会に関心が無ければ、そこに勤めている技師も入ってきません。大学病院の技師長のほとんどは入っているかと思いますが、問題は中小病院の技師長へ

の加入活動こそが非常に大切だろうと思います。技師長自身を全員加入させるような方法を考えるべきで、そうしなければ勤めている技師は東放技に入ってはいきません。

篠原会長：確かに上司が入会していないと、なかなか入ってきませんね。

中村会長：ですから、技師長の意識を改革しないと難しいですよ。技師会の“新年のつどい”などでも、ほとんど知っている技師長しか参加されていませんよね。できれば中小病院の技師長たちが、参加できるような会にしていかなければいけないと思います。技師会は、まず私立大学病院技師長会・国公立大学病院技師長会と連携して、中小の病院技師長が参加できる懇親会でも何でも良いので主催して、技師長が参加し集う機会を作っていく。まず管理職に就いている人たちを改革していかなければ、下の若い技師は増えていかないと思います。日放技もそうですけど技師長が技師会をどう考えているのか、これを考えなかったら、いくら若い人や学生に言ったところで増えてはきません。結局、上司が入会していないじゃないかということになってしまう。都内の技師長をいかに技師会に加入していくかということだと思います。

篠原会長：技師長会をやるという話にはなってきました。私が会長に就任しましてすぐに震災がありましたので踏み出すタイミングが遅れてしまったのですが、落ち着いた頃から副会長と一緒に主だった病院にご挨拶に行きました。技師長さんが会員のところもあればそうじゃないところもありました。

中村会長：招待状出して集まってもらえば良いですよ。

篠原会長：それもひとつの手ですよ。いま施設と技師長の名簿作成と整理を行っているところです。

中村会長：まず集まることからですよ。



武田会長：いまのお話で思い出したことがあります。以前、私が第4地区の理事をしていた時に、小さな施設で技師が一人しか努めていない施設に、どうやって交流を持つかということで悩んでいました。いわゆる一人技師の施設です。

私がおこなったことは、各施設を把握して住所録を作成してワープロで案内の文章を一人ひとり作りました。郵送代がかからないようにとメーカーの方々に手渡してほしいをお願いいたしました。その甲斐あって、第4地区で催し物を行った時には多くの方にいらしていた

だけでした。そして知り合いのいないところに一人で来るのは大変だからと、メーカーの人も一緒に来て欲しいとお願いしました。中村会長がおっしゃるとおり、先輩が技師会に関心が無い場合や、小規模の病院の技師は一人では行きづらいと思いますので、誰か知り合いがいると行きやすくなると思います。昔のことですけれど思い出しましたのでお話をいたしました。

中村会長：そうですね、昔は技師長が入会していると入職するとともに一緒に入会しましたね。

森 会長：一人勤務の施設は難しいとしても、病院のような複数の技師が在籍しているような施設は先ほど仰ったような機会があっても良いですね。あと、技師の法律が変わりはじめているので、業務も幅広く行うこともできるでしょうし、いろいろな面でサポートしていただけるとありがたいですね。

診療放射線技師を取り巻く諸問題について

篠原会長：冒頭から皆さんの同窓会活動も含めて、入会促進とか各学校や同窓会との連携を中心にお話しただいてきました。時間が迫ってきておりますので、今度は診療放射線技師あるいは医療界といった広い視野でお考えや感じておられることはありますでしょうか。

武田会長：ひとつお聞きしてもよろしいでしょうか。以前、新聞で“胃のバリウム検査が非常に有益”だという記事を目にしたのですが、その後、技師会や他の団体で取り上げていないようでしたので、これにつきましてお聞きしたいです。これは診療放射線技師の努力の賜物だと思うのですがいかがでしょう。

篠原会長：いつごろの掲載ですか。

武田会長：2013年（平成25年8月19日）朝日新聞の朝刊に掲載されました。

篠原会長：そういったこともあれば、去年の11月でしょうか…、山口県の下関市で検診バスに医師が同乗していないのは違法だということで、検診バスでの検診が問題になったこともございました。そちらは、日放技4団体で厚生労働省と話をしておりますが、あくまで現行の法ではできるとは言えませんから非常に微妙な問題ではあります。現時点では全国的なことにはなってはいませんが、技師法の改正も含めて動いているところです。武田会長のお話しいただいた新聞掲載のようなことがあると励みになりますね。

武田会長：ありがとうございます。

中村会長：「3・11」などでも活躍していますからね。そういったこともあるのでしょうか。

森 会長：被ばくの問題も報道機関、行政機関による

見解がバラバラで困ったものだと思います。バリウム検査の件では日本の技師は撮影できますが、海外では医師でないとできない国の方が多く、撮影技術が酷い状態なのです。シンガポールの学会でも話に出ており、日本の検査技術は世界トップレベルの素晴らしいものをもっていて、これを世界展開していきましようと思つた中澤日放技会長とお話をしました。バリウムメーカーも含めて英語の上手な技師に、講演してもらう企画を進めているところです。良い技術を国内だけではなく海外に広めていこうといった企画を進めています。

技師会全体的な捉え方としては、われわれの地位を維持していく。それから就職のことです。学生が卒業した後に社会に出て、就職が現実的に厳しい状況になってきていますので、定年後のスキームを作ることで、若い技師が現場で活性化する活動をしていただけたらと思います。

漏洩線量の測定にしても、われわれ診療放射線技師は放射線を管理する立場にあるわけですから積極的に言うべきだと思います。こういった活動を提案したいと思います。

武田会長：沖縄に行った時、お見えになった大学の二人の先生にお聞きしたのですが、われわれの時代の学校は国家試験さえ通せば良いといった考え方でしたが、今は国家試験を通すだけでは駄目で、就職先まで確保しなくてはいけないといった意識を強く持っていると感じました。先生方がなぜ沖縄にいらしたかといいますと、沖縄で今度どの方が定年を迎えるかなどの把握を後輩の施設を回って情報収集するためだそうで、すごいと思いました。皆さんはどうですか？

森 会長：今、就職先がないですね。うちでも就職担当の先生が地方の病院に電話をかけて情報を集めております。

武田会長：同窓会と一緒に情報を集めていたので驚きました。

森 会長：良い大学というのは就職率の高い大学と考えられ、私たちの大学でオープンキャンパスを行いますと、学生達よりもご両親から「就職はできますか？」といった質問が多いですね。良い先輩が良い所に勤めていると系列的に取っていただけることがありますので、歴史があるというのは強みではありますと同窓会としてはお話をしております。

白木副会長：そうすると、今の諸問題は就職難ということになりますかね。



中村会長・武田会長・森 会長：そうですね。

武田会長：関東はかなり厳しいようですね。

森 会長：まだ学校も増えていますからね。それだけ作っても、質の良い学生達が育成できるかという、実はけっこう違うように思えます。

白木副会長：医療人に・・・、という感じの人じゃない方もけっこう見受けられますもんね。

中村会長：最近のトピックスで、TBSで放映している“未来の扉”で取り上げられましたが、唾液で乳がんが高い確率で診断できるというのを放送していましたね。完全に唾液で検査できれば、引っかけた人だけマンモグラフィーを撮影してとなり、検査件数が減るのではないかと考えました。そうなってくると、未来の診療放射線技師もどうなっていくのかと考えますよね。

武田会長：注腸撮影も少なくなりましたよね。

中村会長：ただ、最後までそういった検査はしなくてはいけないでしょうからね。手術前とか、胃も内視鏡だけじゃ、初期のスキルス癌は発見できづらいですからね。内視鏡を実施してもバリウム検査も必要と考えますので、技術は下げるわけにはいかないですね。

武田会長：そうですね。

森 会長：CTコロノグラフィも随分精度が上がってきていると聞きますしね。技術の進歩で変わってきていますからね。

海外に行って思いますが、日本の教育は技術教育がしっかりしていますよね。海外はペイシエントケアが中心で、シンガポールなどで発表を見ていると技術系のものが非常に少ないです。韓国などは若干行っていますが日本は技術の積み重ねができる環境が整っており、レベルがかなり違います。ですから、基本的なこと物理的なことができていないので、海外ではそういった発表は非常に少ないと思います。日本の技師達が作られた環境の中で着実に技術の積み重ねをし、新しい技術に対応していけるというメリットがすごく大きいと思うので、それをどうやって社会に出た後輩につないでいくかというのが大切だと思います。免許を取ってしまうと、勉強会に来ない人は沢山いますのでね。そういう人たちに生涯教育に参加していただきたいと思います。(一同賛同)

法律的には、免許の更新はありませんが、会員として年に1回更新するようなことをやった方が良いと思います。医師の認定医も講習会に参加しなければならないので、診療放射線技師も年に1回は法律や技術がこのように変わりましたよというものを、実施していかなければ質は上がっていかないと考えます。

武田会長：第4地区の勉強会に参加希望を出しました。

やはり、同じ地区であれば応援しなくちゃいけないし…、こういったことも参加するきっかけになると思います。



今年の抱負・展望

篠原会長：最後に本日の内容も踏まえまして今年の抱負をいただきたいと思います。では、私から立場的なことも踏まえまして述べさせていただきたいと思います。

今年も皆様のご協力をいただきながら“がん対策推進基本計画”に基づく診療放射線技師の育成、またチーム医療における診療放射線技師の業務拡大についてのさまざまな計画、診療放射線技師法の改正に向けての事業を展開していきたいと思いますので皆さまご協力をお願いいたします。

葛西副会長：私からはCT造影後の抜針などの講習会を行っております。こういった行為が法的にできるようになりますと、もっと技師会に目を向けていただけないかと思います。とにかく技師会に入会しても何の得になるのかという様にみられておりますが、そういったトピックスは、われわれの活動にも目を向け

ていただけたと思いますので、一日も早く良い報告を届けていただきたいと思います。

森 会長：今年のテーマは、次の世代を育てることです。学生をはじめ若い世代が新しい同窓会づくりに参加できる、環境づくりをしていくというのをテーマとして今年も頑張っていきたいと思います。

中村会長：全国7,000名弱の同窓会長として、診療放射線技師会を発展させるためには同窓会自身もしっかり勉強をして盛り上げていければと思います。

武田会長：JJN同窓会の会員は、診療放射線技師だけではなくて理学・作業療法士、そしてもう少ししますと看護学科・臨床工学科の卒業生も出てきますので、幅広い職種の中でどのようにまとまっていくかということを考えております。そして、活動の基本は活性化ですから今まで以上に全国の支部会の活性化を図って参加人数を増やし、大学の方にも同窓会の存在意義を認めてもらえるよう活動を続けていきたいと思います。今日はありがとうございました。

白木副会長：大変貴重なご意見をたくさんいただき、とても有意義な会でした。私の抱負は入会促進とさせていただきます。それには、考えるだけではなくまずは行動をして、結果につながるような年にしたいと思っています。ぜひともご協力くださいますようよろしくお願い申し上げます。

篠原会長：これにて平成26年新春座談会をお開きにさせていただきます。皆さま、どうもありがとうございました。

誌上講座 第3回 臨床検査 病理検査の概要

独立行政法人国立病院機構 東京医療センター 佐藤和美、山田 晶、小松和典

近年、臨床検査や画像診断などの技術の進歩により臨床診断の精度は向上しているが、今日でも診断のつかない疾患があり病変の最終診断は、顕微鏡を用いての病理学的診断が担っている。病理診断は最終診断あるいは確定診断とよばれ、病態に対する最終的な判断がこれによって下される。特に腫瘍診断では、病理診断は欠かすことができない。腫瘍の治療においては、病理診断なしには進むことができないというほどに、両者の密接な関係のもとに診療が行われている。病理診断は、組織診（組織診断）と細胞診（細胞診断）がある。組織診は生体の一部を顕微鏡下で診断した総称で、死亡した患者から検体を得る場合を剖検（病理解剖）という。

病理検査とは主に組織検査、細胞検査、病理解剖に大別されており、一連の作業を病理医と検査技師とが役割分担しながら行っている。病理検査における検査技師の主な業務は、手術によって摘出された臓器の適切な処理と組織診断や手術中の迅速診断に必要な標本作製、細胞診の標本作製とスクリーニング、病理解剖の介助と標本作製などが挙げられる。

I 組織検査

組織検査とは以下のような場合に病変部より採取した組織から、病理組織標本を作製し、顕微鏡で観察して組織学的診断を行うことである。

1. 組織検体の種類

1) 生検組織診断

内視鏡時の生検、肝生検、腎生検など。

2) 手術時の迅速診断

切除断端や所属リンパ節など。

3) 手術で摘出された臓器の組織診断

4) 遠隔病理診断

通信ネットワークを使って遠距離間の顕微鏡の映像を送受信し、病理医のいない病院の病理診断を行う。

2. 組織標本作製から診断までの手順

病理組織標本の作製は主に検査技師が担当し、組織診断は病理医が行っている。

1) 臨床医による検体採取

採取された組織材料は速やかにホルマリンに浸透させ固定する（図1）。

2) 病理医による切り出し

病変の位置やその広がり、深達度などを考慮しつつ標本にする箇所を選び、組織を切り出す（図2）。

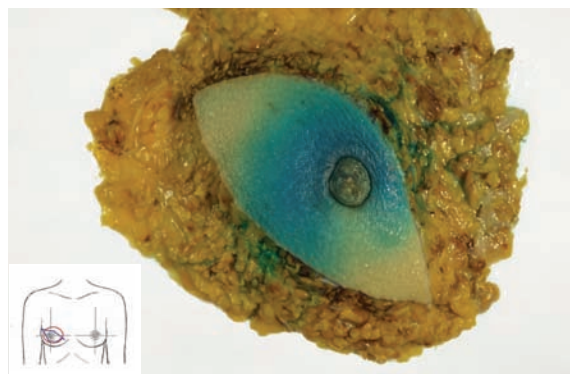


図1 手術で摘出された乳癌

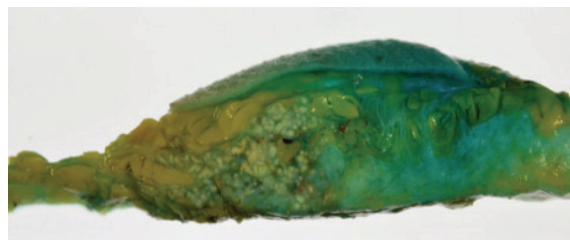


図2 摘出検体切り出し後の剖面

3) 検査技師による組織標本作製

パラフィンというロウの一種に組織を埋め、ミクロトームという専用の機械で、約3マイクロメートル (3/1000ミリ) の厚さにスライス (薄切) する。これを切片という。薄切した組織切片をスライドガラスに貼り付け、ヘマトキシリン・エオシン (HE) 染色にて色付けを行う。

4) 病理医による組織診断

組織標本 (図3) を病理医が顕微鏡で観察し (図4)、組織診断報告書を作成する。報告書には、癌の広がりや深達度、切断断端の癌の有無、脈管侵襲やリンパ節転移の有無など、多くの所見が詳細に記載される。

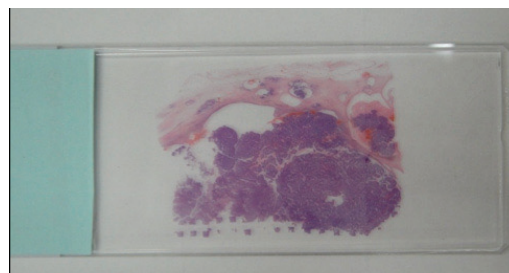


図3 作製された組織標本

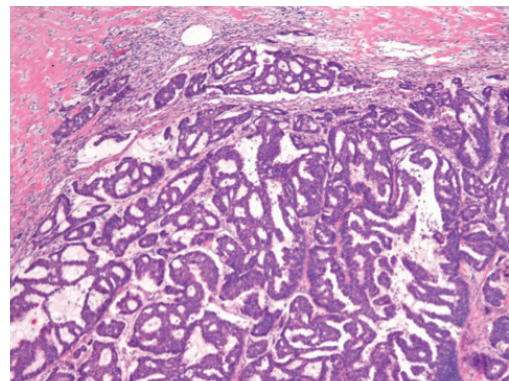


図4 顕微鏡でみた乳癌組織 (乳管癌HE染色)

II 細胞検査

細胞検査とは、患者から採取された検体から細胞診標本作製し、顕微鏡にて異常 (異型) 細胞を見つけ出し、細胞学的判定を行うことである。

1. 細胞診検体の種類

1) 剥離細胞診

尿や喀痰など臓器表面から自然剥離した細胞を採取して調べる。良性や悪性のふり分けなどに用いられる。検体の採取は比較的容易であり、患者に対する侵襲が少ないため、繰り返し検査をすることができる利点がある。子宮頸癌や肺癌など、がん検診においても欠かせない検査となっている。

2) 穿刺吸引細胞診

気管支鏡や乳腺、胸・腹水など病変部に針を刺して吸引して得られた細胞を調べる。針先が病変部に達し新鮮な細胞が得られた場合は、良性や悪性などについて推定することができる。組織検査に比べ身体に対して苦痛が少ないため、組織検査に先立って行われることが多い。特徴所見がある場合は、組織診断に匹敵する確定診断を得ることができる場合もある。

2. 細胞診標本作製から判定までの手順

細胞診標本の作製とスクリーニングを専門の資格を有する検査技師 (細胞検査士) が担当し、病理医 (細胞診専門医) が確認し、判定 (推定診断) を行っている。

1) 臨床医による検体採取・塗抹

検査材料をスライドガラスに塗抹。速やかにアルコールに浸透させ固定する。

2) 検査技師による細胞診標本作製

パピニコロウ (Pap) 染色にて、スライドガラスに塗抹された細胞に色付けを行う。

3) 細胞検査士によるスクリーニング

スクリーニングとは顕微鏡にて異常 (異型) 細胞の有無を観察し、その存在を指摘する作業である。その所見をもとに、どのような病態が想定されるかどうかを判定する。必要に応じて、

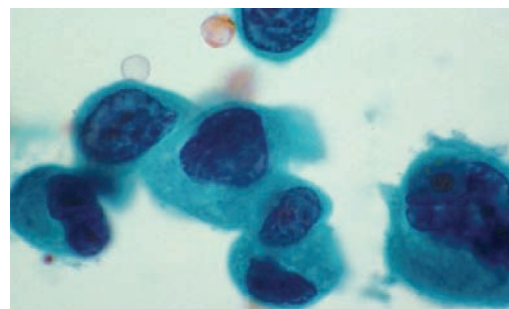


図5 喀痰に検体にみられる癌細胞 (肺腺癌Pap染色)

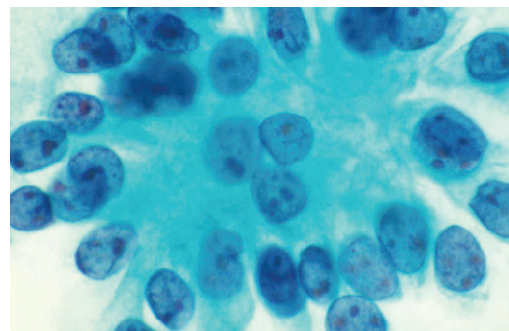


図6 尿検体にみられる癌細胞 (尿路上皮癌Pap染色)

臓器ごとに細かく定義された判定基準が用いられている（陰性、疑陽性、陽性など）

4) 病理医による推定診断

悪性の疑いがある場合などは病理医が最終診断を行う（図5）（図6）。がんの診断や治療経過の観察、治療効果の判定、予後の推定のみならず、性周期の判定、各種感染症や炎症の有無など、治療に役立つ情報を臨床側に提供することができる。

Ⅲ 病理解剖

解剖は、死体の体内の臓器を露出、摘出して肉眼的または組織学的に観察することであり、その目的によって、司法解剖、行政解剖、病理解剖、系統解剖の四つに大別される。

1. 解剖の種類

1) 司法解剖

犯罪が疑われる死体について刑事訴訟法に基づいて行われる。

2) 行政解剖

伝染病や災害などで亡くなり、原因が明らかでないとき、その死因を明らかにするために監察医が行う。

3) 病理解剖

病院において亡くなった患者の死因の検索や病気の広がり、診断および治療効果の判定と究明などを目的として、遺族の承諾のもとに、臨床医の求めに応じて行われる。

4) 系統解剖

医学の教育や研究のため、人体の正常な構造を明らかにすることを目的として行われる。

以上のうち、病院で検査技師がかかわるのは病理解剖である。病理医の指示のもと、遺体からの血液や胸腹水などの採取、臓器摘出の際の介助、開頭、縫合などの業務にあたっている。また、画像診断によって死因を検証するAi（死亡時画像診断）も併用して行われる場合もある。

2. 病理解剖の手順

- 1) 皮膚切開、胸腔・腹腔・心嚢切開
- 2) 心臓、肺、頸部・腹部・骨盤臓器などの摘出
- 3) 骨・頭蓋骨切開、脊髄・脳などの摘出
- 4) 切開した皮膚の縫合
- 5) 摘出臓器の組織標本作製
- 6) 病理医による組織診断

Ⅳ おわりに

病理診断が患者への最終診断となるので検体の取り間違いや誤判定は絶対にしてはならない。病理診断に必要な標本の作製においては迅速も必要であるが、何より正確に行うことを常に心がけている。

また細胞診スクリーニングの判定は、不必要な精査や患者の苦痛につながる過剰判定、病変発見の遅延や生命予後に影響を及ぼすおそれのある過小判定にならないよう細心の注意を払っている。細胞診は、病変全体のごく一部の細胞採取である。その小さな細胞から全体像である疾患を推定しなくてはならず、判定に苦慮することも少なくない。しかしながら臨床情報や画像診断と併せることで、苦慮していた判定の糸口になることもある。疾患推定の手がかりとなる細胞所見を拾い上げ、画像との整合性を考慮しながら判定していくことにより、非常に効率で、かつ診断精度・最終的な組織診断との組織型一致率を上げることが可能となる。

第50回きめこまかな生涯教育に参加して

東京都診療放射線技師会理事（学術教育担当）
公立福生病院 市川重司

今回は参加者側と企画側での感想を述べさせていただきます。

自分は長く一般撮影に携わっており、フィルム（アナログ）の時代から画質、画像に関し興味を持っていました。その時代の画質の良し悪しの評価理論は今も通じるものの、評価方法は全く異なる手法となっております。チャートを何度も撮影して暗室に何度も出入りしたのが懐かしく思います。現在はPCで解析分析を進めていくために、新たな知識吸収が必要と思い参加させていただきました。

現在のデジタル画像は1枚の写真の中に種々のファクターが介在して、写真を構成しており理解するには多くの時間を要します。そしてその画像を分析して評価するには、さらなる労力が必要と思います。

講師の永井先生、北村先生は丁寧にひとつひとつ紐解くように解説していただきました。途中で理解しているか確認をしながらの講義は、受講者側にとっても配慮したもので、おのずとやらなければならないほどでした。パソコンを持ち込んでの実習形式の講義は、途中でわからなくなっても個別に指導していただき、理解しながら次に進むという形で大変助かりました。資料の画像に対してImage-Jで解析を加え、画像が変化するさまは楽しく4時間はあっという間に過ぎたという感

じでした。座学のための聴講では持ち帰ってから実際にやってみると詰まることが多く、そのままになり受講した意味が無くなることもしばしば経験のあることでした。実践的な講義はすぐに聞ける便利さがあり、今後もこのような講義を開催していきたいと思いました。

開催時間も土曜日の午後という時間帯でゆったりと構えることができ、終了時間を心配せずに良かったと思います。

この領域は先生も話しておりましたが、昨今取り組む方が少なく悩みの種とおっしゃっていました。画像の構築と処理を理解するのは、医療界では診療放射線技師であればこそ扱える分野と思います。今後は若い方を中心に多くの方が受講して、画像処理技術を継承していただくことを願いたいと思います。

最後に企画する側として今回のように医用画像の根本を扱うのは、学生の時に実践していると思いますが、臨床に携わった際に診断価値の高い画像提供が重要であると認識した時こそ、その必要性の高さを実感することと思います。そのために卒後教育としても、今回のような企画は必要と認識しております。今後も医用画像の解析・分析に通じるセミナーは積極的に開催しますので多くの方の参加をお待ちしております。

平成25年度中央区健康福祉まつり 印象記

永寿総合病院 三津間理紗

東京都診療放射線技師会が毎年参加している、中央区健康福祉まつりに参加させていただくのは今回が初めてでした。今年の中央区健康福祉まつりは10月27日（日）に開催され、数ある会場のうち、技師会のブースは中央区保健所の2階にありました。

東京診療放射線技師会の活動内容としては、マンモファントムを用いた触診体験および資料配布、放射線被ばくに関する説明が主で、私が担当したのはマンモファントムの触診体験です。小さなお子さんを連れなお母さんや、高齢の女性まで幅広い年代の方々が、50名以上も来てくれました。

訪れた方の感想としては、“結構深くまで触らないと

気付かないのですね”といったものや、“乳がんはどこにできやすいのか？”、“乳がんは何歳以上でできやすいのかな？”などの質問がありました。

今まで方法がわからず自己触診をされていなかった方も、今回の触診体験や乳がんの説明で自己触診の方法や大切さを理解していただけたかと思います。

診療放射線技師1年目で、さらにこういったイベントに参加させていただくのは初めてだったため、自分がどれだけお役にたてるのか不安でいっぱいでしたが、先輩技師たちに助けられ無事に終えることができました。

この体験談を読んで少しでも興味を持たれた方は、来年以降ぜひ参加してみてください。

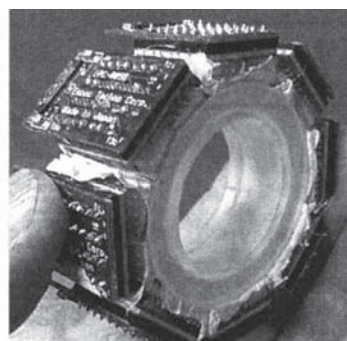


NEWS ひろい読み

PET、0.7ミリまで検出/名大など、小動物用創薬研究に活用

名古屋大学の山本誠一教授らは0.7ミリメートルの小さな物体を見分けられる世界最高の解像度を持つ陽電子放射断層撮影装置（PET）を開発した。マウスなどの小動物用で、脳や心臓などに薬剤が到達するかを調べる創薬研究などに活用を見込む。PETを使った人の脳腫瘍や乳がんの検診にも応用できるという。小動物用のPETは薬剤に放射性物質を付けてマウスなどに注射し、放射線を測る。体内のどの部分に薬剤が集まっているかなどを調べ、薬の効き目や持続時間などを知るのに使われている。名大と大阪大学、東北大学のチームは、放射線の検出器を半導体にして小型化した。隙間なく無数に並べることで、細かく調べられるようにした。従来の市販品は約1.5ミリメートルが限界だった。山本教授によると、原理的にはさらに高い解像度も可能という。今後改良を進めて0.3～0.4ミリメートルも見分けられるようにする考えだ。マウスの脳は約10ミリメートル、心臓は約5ミリメートルで、その中に複雑な構造を持っている。従来、臓器のどこに薬剤が集まっているかを詳しく見るには、マウスから臓器を取り出して薄く切って調べるのが一般的だった。生きたまま調べられる小動物用PETも普及しつつあるが、解像度が低く、複雑な組織のどこに薬が到達したかを詳細に知るのは難しかった。（11.14日経産）

新開発の検出器で0.7ミリの解像度を実現（山本名大教授提供）



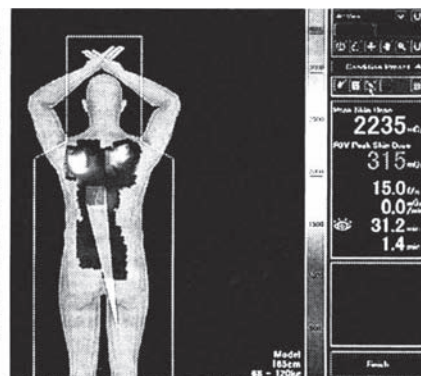
歯科医も簡単に義歯作製

歯科用機器販売のヨシダ（東京・台東）は歯の詰め物など義歯を作製できるCAD/CAM（コンピューターによる設計・製造）システムを10月下旬に販売する。歯科技工士に外注せず、IT（情報技術）を活用して作業時間短縮を目指す歯科医院が増えているため、コンピューター断層撮影装置（CT）と組み合わせて使用することができるのが特徴だ。10月下旬にCADソフト「トロフィーリストア」、3次元切削加工機「トロフィーカム」手持ちスキャナーを備えた撮影機器「トロフィースリーディーアイ」の3製品を発売する。米歯科用機器メーカーの製品で、国内ではヨシダが販売する。これらの製品を組み合わせたシステムを使えば、義歯の作製などに必要な歯型の画像データ撮影から設計、加工まで一括して歯科医院内で医師が自ら手がけられるようになる。ヨシダが販売しているCTを撮影に使用できるのが特徴。すでにCTを使用している医院では今回の撮影機器を購入せずに済む。（詳細略）（9.20日経産）

皮膚の被ばく量常時監視/手術の安全性向上

東芝メディカルシステムズは血管造影装置に組み合わせる皮膚被ばく量のリアルタイム監視システム「ドーズトラッキングシステム」を開発した。手術中に血管造影をする際、エックス線の照射量や照射角度から皮膚被ばく量を算出し、一目で分かりやすく表示するのが特徴だ。放射線被ばくへの関心が高まる中、医師が患者の被ばく量を低減しながら手術をしやすくなるという。血管造影装置はカテーテルによる動脈硬化などの手術中に角度を変えてエックス線を照射し、患部などを観察する。被ばく量を低減させるため、皮膚の線量を把握する必要性が高まっていたが、従来は難しかったという。今回開発したシステムは血管造影装置で照射するエックス線の条件や照射角度などのさまざまな情報を患者の体の仮想モデルと組み合わせ、皮膚の線量を計算す

皮膚の被曝量を分かりやすく表示



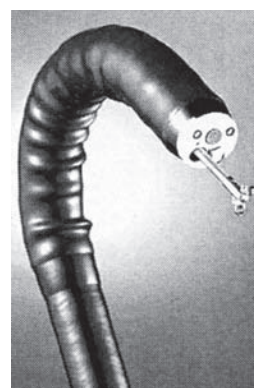
る。患者の体の線量の度合いを3次元カラーマップでモニターに表示する。医師はこれを参考にしながら照射時間を短縮したり、照射角度を分散させたりしながら照射量を低減させる判断ができるという。すでに国内外の一部医療機関で臨床使用を始めている。(後略) (10.11日経)

悪性がん 迅速に判別/国立がん研究センター新手法を開発

急速に大きくなる悪性のがんを迅速に見分ける新しい手法を開発したと、国立がん研究センター東病院の研究チームが英科学誌「サイエンティフィック・リポーツ」に発表した。松村保広・新薬開発分野長の研究チームは、悪性がんの周りには絶えず微量の出血があり、この血を固めるたんぱく質が働いていることに注目。このたんぱく質に特徴的な構造と、このたんぱく質だけに結合する目印物質を発見した。この物質をマウスの血管に入れ、コンピューター断層撮影法(CT)で目印が悪性がんには集まり、悪性度の低いがんには集まらないことを確認した。松村さんは「悪性がんの出血を止めるたんぱく質の構造はマウスも人も同じ。体外から撮影するため、治療が必要ながんを迅速に判別できる。3年以内には臨床試験を始めたい」と話している。(10.13読売)

病変、135倍に光学ズーム/富士フイルム レーザー内視鏡向け

富士フイルムは11月1日、レーザー内視鏡システム「レザリオ」用の下部消化管用拡大スコープ「EC-L590ZP」(写真)を発売する。先端部の太さを細くしながら、光学ズーム機能により倍率135倍まで病変を拡大して観察することができる。すでに発売したレザリオ用のスコープと併せ、多様な疾患に対応する。発売するスコープは先端部の直径を11.7ミリメートルと従来より細くし、スコープ先端は柔らかく、手元の操作部に行くにつれて硬くする構造にした。肛門から大腸に挿入する際、患者の苦痛を抑えるとともに、医師が操作する微妙な力加減を伝えられる。処置具などを出し入れする鉗子(かんし)口径は直径3.2ミリメートルとした。同社が昨年9月に発売したレーザー内視鏡システムは波長の異なる2つのレーザー光源を搭載。粘膜表層の微細血管やわずかな粘膜の凹凸などのコントラストを強調して映し出し、早期がんなどの微小な病変を観察するのに適しているという。(10.18日経産)



キヤノン・X線検出板に新型追加/フルサイズのワイヤレス

キヤノンはデジタルエックス線撮影(DR)装置の検出板で、ワイヤレス方式のフルサイズ型2機種を11月1日に発売する。すでに小型の2サイズのワイヤレスDR方式の検出板を発売しており、同社として全てのサイズをそろえることになった。DR方式の検出板はアナログ撮影のフィルムに相当するが、撮影した画像をデジタル化し、即座に確認できる。とくにワイヤレスタイプは病院の画像システムに無線送信できる利便性が特徴だ。キヤノンが発売するのは縦、横が17インチで、胸部や腹部、腰部などの広い範囲の撮影に適しており、防水規格IPX4に準拠し、液体が浸入しにくく表面をさっと水で洗い流せる。標準型の「CXDI-401Gワイヤレス」と高画質型の「CXDI-401Cワイヤレス」の2種。(10.30日経産)

乳がん判別精度向上/乳腺と区別

GEヘルスケア・ジャパン(東京都日野市)は、同社の乳がん検査装置であるマンモグラフィーと併せて使い、多方向撮影を可能にするシステム「セノクレア」を発売した。マンモで乳がんを判別しづらい高密度乳腺でも腫瘍の有無を見やすくする一方、放射線照射量を抑えた。乳がんを乳腺と判別困難で精密検査に進む患者の割合低減につながる効果を期待できるという。従来のマンモは乳房を固定し縦方向や横方向から撮影するが、腫瘍があっても乳腺と重なり見づらかった。「トモシンセシス」と呼ばれる放射線の照射角度を変えて複数回撮影する技術が生まれ、視認性は高まったが、放射線照射量が増す課題があった。セノクレアは画像処理に先端コンピューター断層撮影装置(CT)などに搭載した技術を応用。従来のトモシンセシスにあった画像のノイズを除去して鮮明にするとともに、放射線量をトモシンセシスでないマンモと同程度に抑えたという。マンモの検査は乳腺も腫瘍も白く映るため、乳腺が発達した患者は腫瘍が見づらい。特に日本人は欧米人と比べ乳腺が発達した高密度乳腺の患者が多い。1,000人がマンモ検診を受けると判別困難な患者のうち100人が磁気共鳴画像装置(MRI)などの精密検査に進み、最終的に乳がんを診断されるのはうち3人という。GEヘルスケアのデジタルマンモ「セノグラフ・エッセンシャル」用のオプションとして使う。定価は7600万円。(11.6日経産)

第36回消化管造影技術研修会のご案内

主催 日本消化器がん検診学会関東甲信越支部

後援 公益社団法人東京都診療放射線技師会 日本消化器画像診断情報研究会

日本消化器がん検診学会関東甲信越支部では毎年、消化管造影検査に携わる放射線技師を対象に、消化管造影技術研修会を開催しています。この研修会は、ガイドライン撮影法の正しい理解と、検査中に異常を判断し、適切な表現を可能とする知識と造影技術および読影法の習得を目的とし合宿制で実施しています。

各講師陣による内容の深い講義および持参画像検討会と技術指導は、毎回多くの受講生より好評を得ております。この機会に是非受講していただきますようご案内申し上げます。

記

【開催期日】平成26年1月31日(金)～2月2日(日) 2泊3日(3～4名の相部屋)

【研修会場】日本青年館ホテル 〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘7-1 TEL 03-3401-0101

【受講資格】消化管造影検査に係わりのある方ならどなたでも受講できます。

【受講費用】日本消化器がん検診学会 正会員又は支部会員 50,000円、非会員 70,000円
(宿泊・食事代 24,000円含む)

【募集人数】100名(定員になり次第締め切ります)

【合宿制】原則宿泊制となっておりますがやむを得ない理由がある場合は別途対応いたします。

【申込締切】平成25年12月25日

【応募方法】日本消化器がん検診学会関東甲信越支部放射線部会ホームページより
<http://www.jsjgcs-kanto-x.org/>

以上

プログラム

	午 前	午 後
1日目 12:45 ～ 20:00		<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・胃がん検診専門技師認定と読影補助について ・胃X線検査の撮影技術 ＝基準撮影法における撮影手技＝ ・実 験＝硫酸バリウム造影剤の特性＝ ・持参画像検討会(グループ検討)
2日目 8:30 ～ 18:00	<ul style="list-style-type: none"> ・胃がん検診における所見用語 ・胃癌のX線診断Ⅰ ＝症例に学ぶ＝ (入口陽介先生) ・胃X線検査のピットホールと追加撮影のポイント 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全なバリウム検査のために ・胃癌のX線診断Ⅱ (馬場保昌先生) ＝肉眼・組織所見との対比＝ ・胃X線画像の読み方と考え方 (吉田諭史先生) ・症例検討会 (指導：吉田諭史先生)
3日目 8:30 ～ 15:45	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル撮影装置の保守と管理 ・食道X線診断学 (八巻悟郎先生) ・胃癌組織発生からみた胃癌の診断 ＝胃癌の三角＝ (中村恭一先生) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基準撮影法におけるデジタルX線装置および検査法 (杉野吉則先生) ・胃がん検診における統計の基礎 ・総括・閉講式 (宮田和則 放射線部会代表世話人)

厚生労働省委託事業（平成25年度チーム医療推進事業）

チーム医療による災害支援

—多職種連携の推進に向けて—



参加費 無料
(事前申込必要)

日時 2014年 **2月16日** (日) 9:30～17:00 (開場 9:00)

場所 笹川記念会館 定員 先着500名

ホームページよりお申し込みください www.team-med.jp 締切：2014年1月26日(日)



PROGRAM

基調講演

「緊急災害時の医療連携とその課題（仮題）」 講師：小早川義貴先生（独立行政法人国立病院機構災害医療センター）

教育講演

「南相馬の活動から見てきた望まれる医療職種の連携（仮題）」 講師：原澤慶太郎先生（元：南相馬市立病院、現：亀田総合病院）

シンポジウム

「今後の災害にどのように備えるか？どのような連携が必要か？（仮題）」 提言：代表 半田一登

テキスト

当日、資料として「災害時におけるメディカルスタッフの役割」（非売品）
「いま、チーム医療を知っていただくために」（非売品）の2冊を配布します。

主催：チーム医療推進協議会

（参加団体）日本医療社会福祉協会・日本医療リハビリテーション協会・日本栄養士会・日本看護協会・日本義肢装具士協会・日本救急救命士協会・日本言語聴覚士協会・
日本作業療法士協会・日本歯科衛生士会・日本視能訓練士協会・日本診療情報管理士会・日本診療放射線技師会・日本病院薬剤師会・日本理学療法士協会・
日本臨床衛生検査技師会・日本臨床工学技士会・日本臨床細胞学会細胞検査士会・日本臨床心理士会・山梨まんまくらぶ・あすなる会

受託：公益社団法人日本理学療法士協会



お問い合わせ

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 3-8-5 公益社団法人日本理学療法士協会内
FAX：03-6804-1405 Email：info@team-med.jp

News

1月号

前回連絡会議事録確認

前回議事録について確認を行ったが修正意見はなかった。

理事会定数確認

出席：17名、欠席：3名

会長報告

毎年11月というのは、さまざまな事業や行政まつりなどがあり、大変忙しい時期となります。皆さまにご協力いただきまして肅々と事業を展開しております。広報活動も1年で一番忙しい時期だと思いますが、よろしくお願いします。だいぶ寒くなりインフルエンザも流行りはじめ、東京都内の学校でも学級閉鎖が出たということも聞いております。皆さまも体調管理していただいて12月の役員研修会を盛り上げたいと思います。

監査報告

平成25年10月21日に中間監査があり、佐藤清榮監事より報告がされた。

報告事項

1) 会長

活動報告書に追加なし。

2) 副会長

活動報告書に追加なし。

3) 専門部委員会報告

事業活動報告書に追加なし。

4) 委員会等報告

①広報委員会

- ・ピンクリボンin東京2013（10/1）が都庁前から移転し二子玉川ライズギャラリーにて開催された。

日 時：平成25年11月7日（木）

午後6時45分～午後8時00分

場 所：公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所

出席理事：篠原健一、葛西一隆、白木 尚、石田秀樹、
関 真一、大室正巳、浅沼雅康、高坂知靖、
市川重司、野口幸作、江田哲男、安宅里美、
高橋潤一郎、飯島利幸、大地直之、千葉利昭、
川崎政士

出席監事：佐藤清榮

出席委員長：藤田賢一、岡部博之（城北支部長代理）、
田川雅人（城東支部長）

指名出席者：齊藤謙一（第1地区委員長代行）、
河内康志（総務委員）、雨宮広明（総務委員）

欠席理事：森 俊、眞田鮎子、小野口敦

議 長：篠原健一（会長）

司 会：葛西一隆（副会長）

議事録作成：雨宮広明（総務委員）

参加者：12名（乳がんしこり体験：5名・被ばく相談：7名）

- ・中央区健康福祉まつり2013（10/27）が開催された。

参加者：90名（乳がんしこり体験：83名・被ばく相談：7名）

②その他、事業活動報告書に追加などなし。

5) 地区活動報告

活動報告書に追加なし。

議 事

1) 日本消化器がん検診学会後援ならびに名義使用願いについて

日本消化器がん検診学会第46回学術集会ご後援ならびに名義使用願いについて審議した。

【承認：17名、保留：0名、否認0名】

2) 事業申請について

①日本診療放射線技師会主催 東京都診療放射線技師会実施事業

平成25年度第4回静脈注射（針刺しを除く）講習会

平成26年1月19日（日）、三鷹産業プラザ開催について審議した。

【承認：17名、保留：0名、否認0名】

②日本診療放射線技師会主催 東京都診療放射線技師会実施事業

平成25年度診療放射線技師基礎技術講習「放射線治療」

平成26年1月26日（日）、東京都診療放射線技師会研修センター開催について審議した。

【承認：17名、保留：0名、否認0名】

③第12回ウィンターセミナー

平成26年1月25日（土）、東京医科大学研究教育棟4F開催について審議した。

【承認：17名、保留：0名、否認0名】

④第6回MRI集中講習会

平成26年2月2日（日）、東京都診療放射線技師会研修センター開催について審議した。

【承認：17名、保留：0名、否認0名】

⑤多摩支部研修会

平成26年2月7日（金）、国分寺労政会館開催について審議した。

【承認：17名、保留：0名、否認0名】

⑥城西支部研修会

平成26年2月28日（金）、東京医科大学開催について審議した。

【承認：17名、保留：0名、否認0名】

⑦第8地区研修会

平成26年1月24日（金）、東邦大学医療センター大森病院開催について審議した。

【承認：17名、保留：0名、否認0名】

⑧災害対策研修会

平成26年3月8日（土）、東京都診療放射線技師会研修センター開催について審議した。

【承認：17名、保留：0名、否認0名】

3) 第36回消化管造影技術研修会の後援依頼について

平成26年1月31日（金）～平成26年2月2日（日）、第36回消化管造影技術研修会の後援依頼について審議した。

【承認：17名、保留：0名、否認0名】

4) 10月の新入会の審議が行われた。

10月 新入会9名、転入2名、転出2名、退会3名。

【承認：17名、保留：0名、否認0名】

10月期 未納退会62名。

【承認：0名、保留：17名、否認0名】

野口理事：今回の理事会で未納退会が承認されるのですが、ここで議事にある未納退会者については日本診療放射線技師会で会費未納のため退会処理されている方となります。日本診療放射線技師会の方の会員の方、東京都診療放射線技師会の方の会員の方とならいたための運用となっているそうです。

篠原会長：資料の通り、62名の未納退会者がおります。これは本人の意思で未納なわけですが毎年この時期に60名前後の未納退会者があります。現在、東京都診療放射線技師会は2,000名を少し超える会員がいるわけですが、この時期に2,000名を割ってしまいます。安定して2,100名前後の会員の方があると、2,000名をきらないので、なんとかクリアして2,100名の会員の方を有したいと思っています。もちろん未納退会にならないように働きかけをしなければなりません、その辺も含め未納退会が多いことは働きかけ不足なのかと反省もあります。反省も含めな

がら何か良い対策があれば皆さまの知恵をお借りしたいと思っております。

野口理事：名簿にある数名の知っている方には連絡しております。

大室理事：名簿に入っている方で「会費を納入しますのでお願いします」という連絡が1名入っています。

篠原会長：そうですか。たぶんそういう方も名簿に何名かいらっしゃるかもしれません。本意じゃない方もいると思いますので、全員に電話連絡するのは難しいですが知っている方がいましたら連絡をしてあげてください。

野口理事：日本診療放射線技師会が会費未納で退会処理されてしまっております。

篠原会長：再入会になってしまうのですか。

野口理事：再入会になってしまうかもしれませんが、日本診療放射線技師会も退会は理事会承認のため確約は何もできませんが、納入意思のある方にたいして会員の継続ができるか確認をしようと思います。

大室理事：東京都診療放射線技師会の未納を防ぐ目はあるのでしょうか。

野口理事：東京都診療放射線技師会のみ会員として残す方針はありませんので両方の会を退会するかたちとなってしまうのですが、日本診療放射線技師会に退会とならないようにできるか確認したいと思います。

篠原会長：そうですね。確認して会員として継続していただきたいですね。

葛西副会長：名簿をみて、対象となりそうな方は他に載ってますでしょうか。

川崎理事：名簿に載っていますね。

篠原会長：未納退会については微妙な要素を含みます。名簿に対象の方がみられるため、東京都診療放射線技師会の未納退会については少し猶予をもとうと思います。

野口理事：まとめて交渉してみたいと思います。

篠原会長：杓子定規にルールだと言えばそれまでですが、声を掛ければそんなつもりはない方もいると思いますので声掛けを行いましょう。しかしながら、いつまでも猶予を延ばすことはできません。

白木副会長：まず、日本診療放射線技師会に確認しましょう。

篠原会長：そうですね。まず本意じゃない方も数名いることを伝えましょう。

野口理事：1名は対象の方がいますので、日本診療放射線技師会に確認しメール送信します。

篠原会長：会員の方にもさまざまな事情があると思いますのでよろしくお願いします。

葛西副会長：会費未納退会者については保留とさせていただきます。

地区質問、意見に関する事項

1) 第14地区

日本診療放射線技師会における会費終身免除制度について、そのような制度がある事を直接本人に連絡しているのでしょうか。同様に東京都診療放射線技師会でもシルバー会員制度がありますが、アピールなどは行っているのでしょうか。アピールなどを行ってないようなら、ハガキなどでアプローチしてみたいかでしょうか。

浅沼理事：シルバー会員制度というのは東京都診療放射線技師会にはありませんが、前プラチナ会員制度のことだと思います。現在は会費減額制度となっておりますが、東京都診療放射線技師会会誌にて毎年2月号にご案内を掲載しております。

篠原会長：日本診療放射線技師会免除制度は一定の基準を満たし、100,000円を納付して申請すると会費が終身免除となる制度です。東京都診療放射線技師会では会費減額制度となります。この会費減額制度についても自動的に移行する制度ではありませんし、会費を通常に支払う方もいらっしゃると思います。そのため今まで通りお知らせで対応したいと思います。

連絡事項

1) 渉外委員会

・日本診療放射線技師会における50年表彰と30年表彰対象者の東京都診療放射線技師会推薦の依頼がありました。東京都診療放射線技師会推薦は50年表彰2名と30年表彰9名おります。会費の納入について確認も取れておりますので日本診療放射線技師会へ推薦致します。

2) 情報委員会

・「TART」ロゴマーク応募を10月1日より開始し、現在10件の応募がありました。役員研修会の議題としてお願いいたします。

3) 厚生調査委員会

・11月16日（土）ボウリング大会が開催されます。ボウリング大会参加の地区リストについて11月9日（土）までに厚生調査委員会へ提出をお願いします。

4) 総務委員会

・提出していただきました各地区の次年度事業計画案において、事業名称などに現状に一致しないものがありましたので、専門部で修正を行うのでご了承ください。

・12月7日（土）～8日（日）に役員研修会が開催されます。役員研修会の申し込み締め切りは11月15日（金）としますのでよろしくお願い致します。

・12月6日（金）午後2時、日比谷公会堂にて「国民医療を守るための決起大会」が開催されます。決起大会への参加できる方は石田総務委員長へ11月25日17時までに連

絡ください。

・12月27日（金）事務所納め、1月6日（月）事務所開きとなります。

5) 編集委員会

・イエローケーキについて来年以降の担当スケジュールを作成しました。

・地区・支部研修会に使用する会誌掲載用原稿雛形を作成しました。

・会誌において、ひらがな表記（記者ハンドブックを基準として）している頻度の多い語句を抜粋し資料を作成しました。資料についてメール配送しておりますが、資料の保存形式により開けない方がいるため、形式を変えて再発送いたします。参考資料として活用してください。

6) 庶務委員会

・12月21日（土）に時間は未定ですが理事研修会を実施する予定です。

篠原会長：公益法人に移行したことで、理事の皆さまに法的に必要な事柄などを含めて理解していただくことが重要であります。理事研修会について来年を予定しておりましたが、早い段階で四谷監査法人の高山さんにお時間いただきました。公益法人に移行し来年度の事業計画、公益法人の在り方を含めてわれわれにとって重要な内容をお話していただく予定です。

岡部委員長：理事研修会について間口は広いのでしょうか。

篠原会長：理事、定款諸規定委員、拡大理事会の参加者については声を掛ける予定でいます。

7) 定款諸規定等委員会

・12月7日（土）～8日（日）に開催する役員研修会にて活動報告を行います。事前に配信しました「定款変更（案）新旧の定款対応表」および「役員の報酬等並びに費用に関する規定（案）」を地区委員会などで確認いただき、当日意見を伺いたいと思います。

8) 第6地区

・第6地区研修会が11月8日（金）に開催されますので参加をお願いします。

テーマ「東京都における災害廃棄物の受け入れについて」

今後の予定

予定表（添付ファイル）の確認をお願いします。

ファイルは随時更新しているが、ブッキングや間違いなどがあれば、石田総務委員長までご連絡ください。

以上

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ イエローケーキ ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

じえじえじえな温泉宿

当直中、必ず思うことがある。“また温泉行きたいなあ～”

家族共通の趣味である温泉旅行は、北は北海道、南は鹿児島。〇〇温泉と名の付くところに宿泊したのは100を超えた。現在、娘の誕生日を祝う温泉旅行を計画中である。

某旅行会が企画する温泉スタンプ帳は、会員の温泉宿に1泊するごとに1つスタンプを押印され、10個たまると押した温泉宿のなかから、1泊無料で宿泊することができる。

そんな素晴らしいスタンプ帳を利用しない手はない。すでに5冊目を収集中である。宿ごとに趣が異なるスタンプを集めるのも、旅行中の楽しみとなっている。

そんな会員の宿の中に、常宿としている温泉旅館がある。都心から車で約3時間半、奥州の3高湯、磐梯吾妻スカイラインの入り口にあるその温泉は、日曜夕方の国民的アニメ番組のオープニング曲の中でも紹介された硫黄臭たっぷりの白濁した硫黄泉で、体の芯まで実に温まる。源泉かけ流しで、もうもうと湯気が立ち上り、ジャブジャブ湧いている。しかし、金属を腐食させる効果が高く、部屋のTVにはビニール袋がかけてあり、新車で購入した車の車検は1回しか通すことができないらしい。その証拠として、宿の車のエンブレムが青銅に輝いている。

男女ともに内湯と趣の異なる露天風呂があり、夕食時に男女が入れ替えられる。夜には街灯一つない空に、満天の星が輝く。露天風呂につかりながら、都会の喧噪を忘れることができる。家族で営むその宿は、初代のチャーミングな風貌が宿名となっているのだが、正直「？」と感じてしまう。3代目の主人は、以前、整形領域で使用される手術器具を扱うメーカーに勤務していたそうで、妙に親近感がわいた。もちろん自分が診療放射線技師であることは周知している。いつも平日に宿泊していたので、どんな職業なのかを問われた際に話す機会となった。先の震災以降、再び訪れた際には「よくぞ来てくれました」と以前よりも増して歓迎されるようになった。よほどの苦勞があったことであろう。余計なことは、一切聞かず、いつも以上に酒を頂いた。

足の悪い老夫婦のために、他の宿泊者に了解を得て内湯を貸し切りにしたり、娘の誕生日に宿泊した際には、部屋に誕生日ケーキをサプライズとしてプレゼントしてくれたり、決してスタッフが足りない訳ではないのだが、主人も出来立ての温かい料理を運んだりとお・も・て・な・し」の心遣いが実によくきいた宿である。

冒頭でも記述したが、娘の誕生日旅行に・・・と宿をとろうとしたが、既に満室。残念ではあるが、宿が繁盛しているのは喜ばしい事である。

硫黄の湯花と、宿で起きたサプライズ。ウラン鉱石とは違うイエローケーキなお話でした。

最後に“ひかる、5歳のおたんじょうび、おめでとう！”。

SASANのS

学術講演会・研修会等の開催予定

日時、会場等詳細につきましては、会誌にてご案内しますので必ず確認してください。

平成25年度

1. 学術研修会

☆第12回ウインターセミナー 平成26年 1月25日 (土)

2. きめこまかな生涯教育

第51回きめこまかな生涯教育 平成26年 1月11日 (土)

☆3. 日暮里塾ワンコインセミナー

第28回日暮里塾ワンコインセミナー 平成26年 1月21日 (火)

第29回日暮里塾ワンコインセミナー 平成26年 2月18日 (火)

4. 集中講習会

第6回MRI集中講習会 平成26年 2月2日 (日)

☆5. 支部研修会

多摩支部研修会 平成26年 2月7日 (金)

城西支部研修会 平成26年 2月28日 (金)

6. 地区研修会

第12地区研修会 平成26年 1月18日 (土)

第8地区研修会 平成26年 1月24日 (金)

第5地区研修会 平成26年 2月21日 (金)

7. 特別委員会研修会

平成25年度災害対策委員会研修会 平成26年 3月8日 (土)

8. 地球環境保全活動

富津海岸清掃活動

関連団体

平成25年度第4回静脈注射(針刺しは除く)講習会 平成26年 1月19日 (日)

平成25年度診療放射線技師基礎技術講習「放射線治療」 平成26年 1月26日 (日)

第36回 消化管造影技術研修会 平成26年 1月31日 (金)～2月2日 (日)

厚生労働省受託事業「チーム医療による災害支援～多職種連携の推進に向けて～」
平成26年 2月26日 (日)

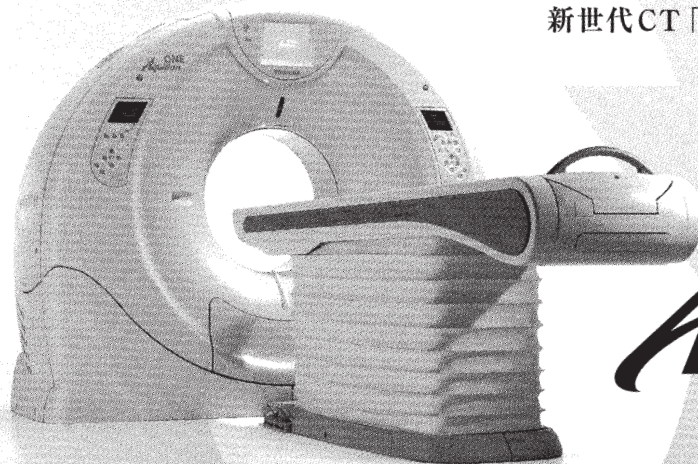
☆印は新卒かつ新入会 無料招待企画です。

(新卒かつ新入会員とは、技師学校卒業年に技師免許取得し本会へ入会した会員をいう)

TOSHIBA
Leading Innovation >>>

たった1回転で全脳が診える。心臓が診える。

Area Detectorが、1回転で全脳も心臓もフルカバー。
新世代CT「Aquilion ONE」の誕生です。



ONE
Aquilion
Area Detector CT



東芝メディカルシステムズ株式会社

本社 〒324-8550 栃木県大田原市下石上1385番地 お問い合わせ先 03-3818-2170 (東京本社)
<http://www.toshiba-medical.co.jp>

承認番号: 219ACBZX00029000
東芝スキャナ Aquilion ONE TSX-301A

MORIYAMA多目的診断用保持具

MORIYAMA



Round Foam

多目的診断用保持具・ラウンドフォーム

しっかり安定、ラクラク撮影!
患者さんの負担を軽減し、
撮影の妨げを解消する
「ラウンドフォーム」

ラウンド加工により、
患者さんにもやさしいソフトな感触。
X線撮影時にエッジ部分が
写り難くなりました。



MORIYAMA
**Round
FOAM**

※RoHS指令(特定の有害物質使用規制に関する指令)に対応しております。

MORIYAMA
MEDICAL EQUIPMENTS
SINCE 1954

株式会社森山X線用品
MORIYAMA X-RAY EQUIPMENTS CO.,LTD.

営業部/〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目24番11号 TEL.03-3811-5811(代) FAX.03-3811-5484
本社/〒123-0873 東京都足立区扇1丁目52番12号 TEL.03-3898-3151(代) FAX.03-3898-3510
<http://www.moriyama-x.co.jp> E-mail info@moriyama-x.co.jp

診療放射線学科専任教員募集

東京電子専門学校

医療・コンピュータ・電子の総合学園、創立67年の伝統と4省認定校

募集対象者：診療放射線技師（臨床実務経験5年以上）、教育経験あればなお可

募集人員：若干名

学 校 名：東京電子専門学校

住 所：〒170-8418 東京都豊島区東池袋3丁目6番1号

待 遇：経歴、資格、前給等を考慮して本校規定により優遇
賞与（昨年度実績5.45月）、交通費支給

勤務・休日：9:00～17:00（実働7時間）、週休2日（土日祭休）休出は代休有、半日有給制度有

社 会 保 険：社会保険完備（私学共済）

宿舍の有無：なし

応募方法：履歴書（写）、職務経歴書、資格者証のコピー（必要なもののみ）、通勤可能な方、
担当できる教科（可能であればお知らせください）

担 当 者：脇坂 哲夫 E-mail: wakisaka@tokyo-ec.ac.jp

TEL: 03 (3982) 3131 (大代表) FAX: 03 (3980) 6404

診療放射線技師募集

武蔵村山病院

募集対象者：診療放射線技師 1名（MRI検査経験5年以上）

病 院 名：社会医療法人財団 大和会 武蔵村山病院

勤 務 先：〒208-0022 東京都武蔵村山市榎1-1-5 TEL:042-566-3111（代）FAX:042-566-3318

給 与：基本給 196,200円以上（経験、年齢を考慮して加算）、食事手当、皆勤手当、賞与 年2回（4.6ヵ月分）

勤 務 時 間：平日・土曜日：8時30分～17時00分

休 日：日曜日・祝日（4週8休制）

社 会 保 険：健康・厚生年金・労災・雇用

宿舍の有無：なし

応募方法：履歴書（職務経歴も含む）を担当者宛に郵送もしくは持参（随時募集）

担 当 者：放射線科技師長 福島敏一 E-mail: fukushima-t@yamatokai.or.jp 内線：3235

公益社団法人 東京都診療放射線技師会 研修会等申込書

研修会名	第 回		
開催日	平成 年 月 日() ~ 月 日()		
会員/非会員 (必須)	<input type="checkbox"/> 会員 <input type="checkbox"/> 非会員 <input type="checkbox"/> 一般 ※ 日放技会員番号(必須) [] <input type="checkbox"/> 新卒かつ新入会の方はチェック		
所属地区	第 地区 または 東京都以外 [] 県		
ふりがな			
氏 名			
性 別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性		
連絡先	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 施設 ⇒ 施設名 []		
	TEL (必須)		
	FAX		
	メール (PCアドレス)		
備 考			

FAX 03-3806-7724
公益社団法人 東京都診療放射線技師会 事務所

Postscript

新年、明けましておめでとうございます。

先日、ICLS（Immediate Cardiac Life Support：医療従事者のための蘇生トレーニングコース）にプレインストラクターとして参加した。以前から診療放射線技師には心肺蘇生の知識や、技術の習得が必要であることを痛感しており、せっかくならもっと深く学んで、普及させる側になりたいと思ったのがきっかけである。

ICLS、ACLSなど主催団体により名称や内容、最終到達点が少し違うが、大筋としては一次救命処置、二次救命処置、初期治療などを学ぶ。HPによると、私の参加したICLS講習会は「突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」を習得することを目標としており、講義よりも実技実習が中心となっている。診療放射線技師をはじめ、看護師、研修医、コメディカルなど医療従事者すべてを対象とする講習であるため、気管挿管や除細動器の操作なども人形に対して練習する。本来、これらは医師以外が行う行為ではないが、体験することによ

り、例えば気管挿管するときに医師が周囲の人に何をしてほしいのかを知ることができる。以前、受講生としてこの講習に参加したときには、胸骨圧迫や気道管理、除細動、点滴・薬剤の準備、さらに報告やチームの人に指示を出すという慣れないことをこなすだけで精一杯であった。しかし、プレインストラクターの立場で参加するとそれらを冷静かつ総合的にみることでできたのは大変勉強になった。ちなみに受講生として参加したときには、ほぼ1日中胸骨圧迫（いわゆる心臓マッサージ）をしたお蔭で、翌日は全身が筋肉痛になった。

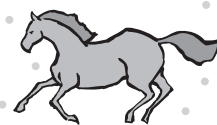
皆さんの中で、もし少しでも心肺蘇生に興味をお持ちの方がいるようならぜひ受講することをお勧めする。また、患者の急変時に技師ができることは意外にたくさんあることを知ることも大切かもしれない。

今年も皆さまにとって実り多き素敵な1年となりますよう。

<chai姉>

■ 広告掲載社

コニカミノルタヘルスケア(株)
シーメンス・ジャパン(株)
(株)島津製作所
GEヘルスケア・ジャパン
東京電子専門学校
東芝メディカルシステムズ(株)
富士フイルムメディカル(株)
(株)日立メディコ
武蔵村山病院
(株)森山X線用品



謹賀
新年

旧年中は「東京放射線」への
多大なご協力いただき
ありがとうございました
今年もなお一層のご指導のほど
お願い申し上げます

編集委員会一同

東京放射線 第61巻 第1号

平成25年12月25日 印刷（毎月1回1日発行）

平成26年1月1日 発行

発行所 東京都荒川区西日暮里二丁目22番1 ステーションプラザタワー505号

〒116-0013 公益社団法人 東京都診療放射線技師会

発行人 公益社団法人 東京都診療放射線技師会

会長 篠原 健一

編集代表 浅沼 雅康

振替口座 00190-0-112644

電話 東京 (03) 3806-7724 <http://www.tart.jp/>

事務所 執務時間 月～金 9:30～17:00

案内 ただし土曜・日曜・休日・祭日および12月29日～1月4日までは執務いたしません

電話・FAX 東京 (03) 3806-7724

編集スタッフ

浅沼雅康

内藤哲也

岩井譜憲

森 美加

中谷 麗

柴山豊喜

平田充弘

高橋克行